
地域福祉の推進に関する市民アンケート調査

調査報告書

岸和田市

1 調査の概要

(1)調査の目的

第5次地域福祉計画を策定するにあたり、地域福祉の推進に関わる市民の意識を調査し、本市の地域福祉の推進に関わる課題を抽出するための検討資料を得ることを目的としている。

(2)調査の対象・方法・期間

対象	市内在住の18歳以上の方の中から3,000人を無作為抽出
方法	郵送による発送・回収
期間	令和3年5月31日～6月14日

(3)回収状況

配布数	3,000件
有効回収数	1,188件
有効回収率	39.6%（前回45.1%）

(4)報告書の見方

- 図表内に付加されている「n」は質問に対する回答者数。
- 結果数値は、小数点第2位を四捨五入しているため、単数回答であっても、合計値が100.0%にならない場合がある。
- 複数回答の場合、選択肢毎に回答者数に対する割合を表示しているため、合計値が100.0%を超える場合がある。
- クロス集計は、統計的仮説検定（カイ二乗検定）により、「有意差あり」か「有意差なし」を検証した。「有意差あり」は、2つの項目（例：性別と地域活動の参加状況）の関連が認められたという解釈ができる。
- クロス集計は、全設問に対して「性別」「年齢別」「地域別」に集計した。本報告では、集計結果は「有意差あり」と判定されたものだけを掲載している。したがって、単純集計のみ掲載している質問項目は「有意差」が認められなかった設問である。
- 現行計画（第4次）の策定時に実施したアンケート調査（以下、「前回調査」という。）と比較可能な設問はすべて比較した。本報告では、比較結果は、経年変化に特徴があるものだけを掲載している。

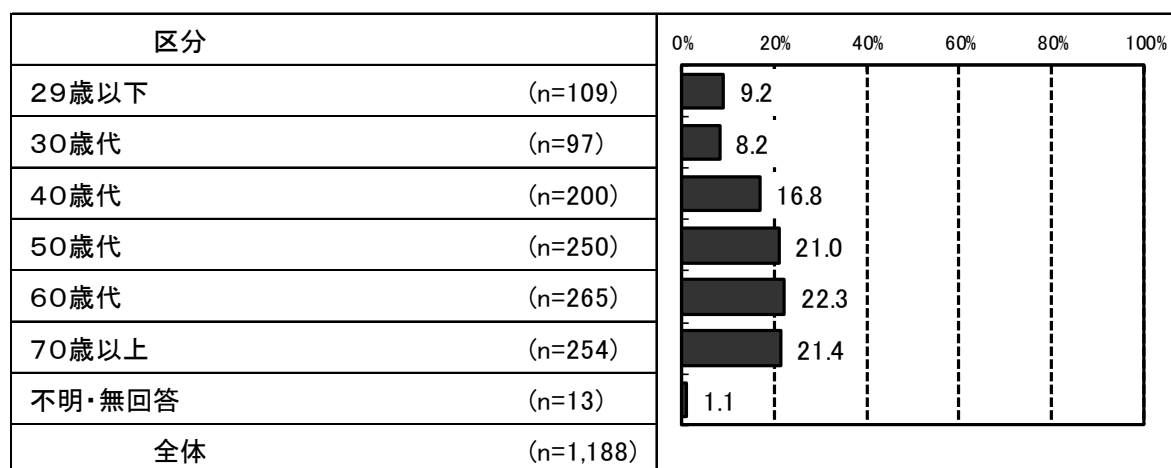
【前回調査の概要】

対象	市内在住の18歳以上の方の中から3,000人を無作為抽出		
調査実施時期	平成28年1月	回収状況	有効回収数:1,353件 回収率:45.1%

2 調査結果

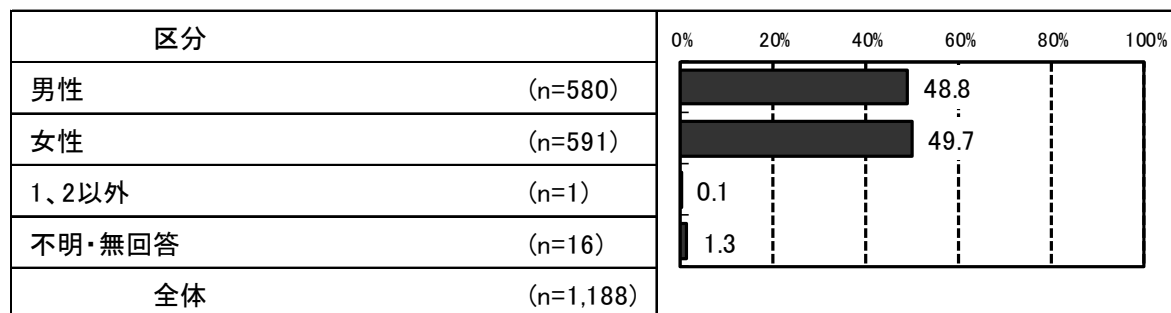
問1_1 年齢

「60歳代」が22.3%で最も多く、次いで「70歳以上」が21.4%、「50歳代」が21.0%となっている。



問1_2 性別

「女性」が49.7%で最も多く、次いで「男性」が48.8%、「1、2以外」が0.1%となっている。

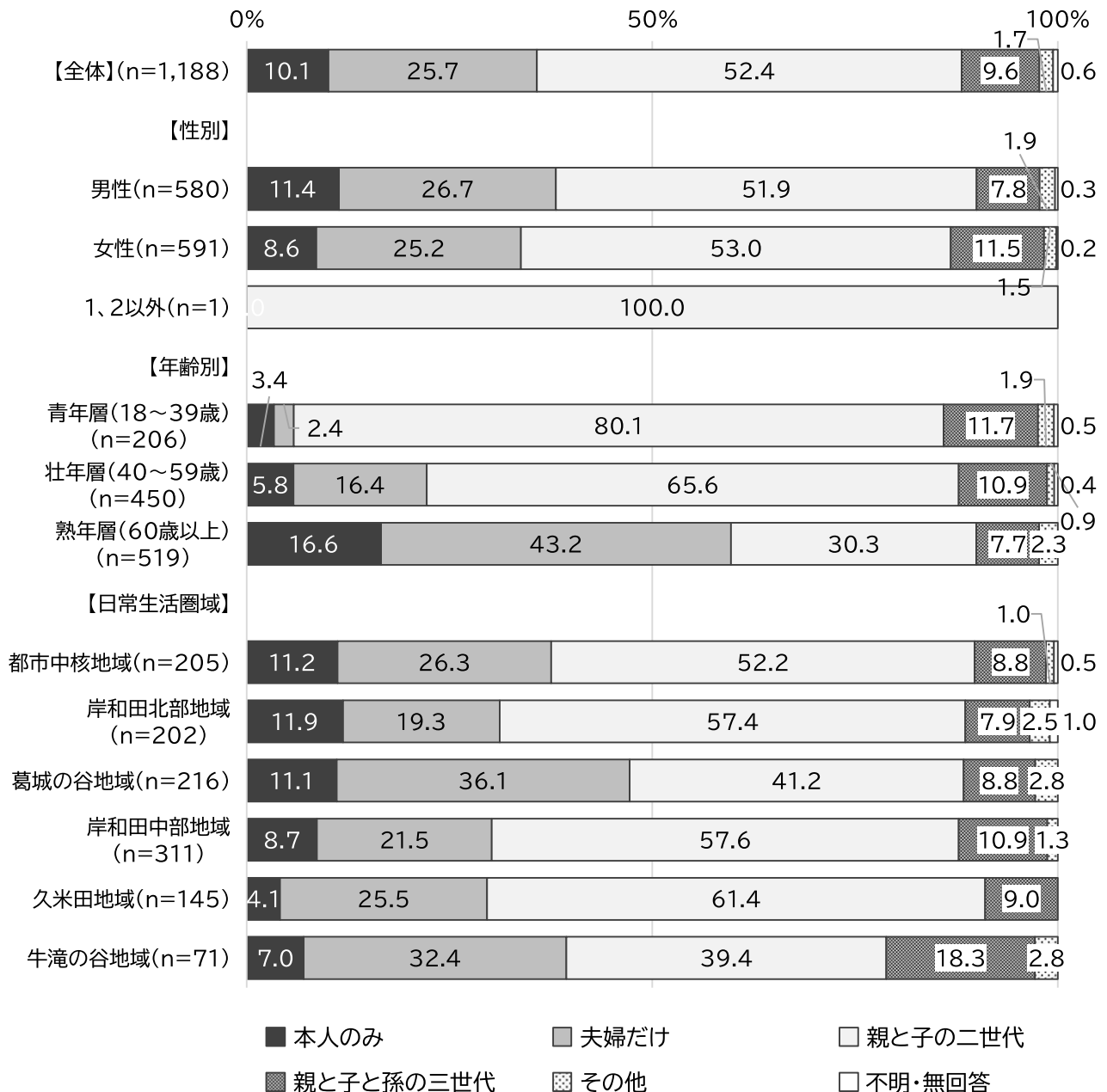


問2 家族構成

「親と子の二世代」が52.4%で最も多く、次いで「夫婦だけ」が25.7%、「本人のみ」が10.1%となっている。

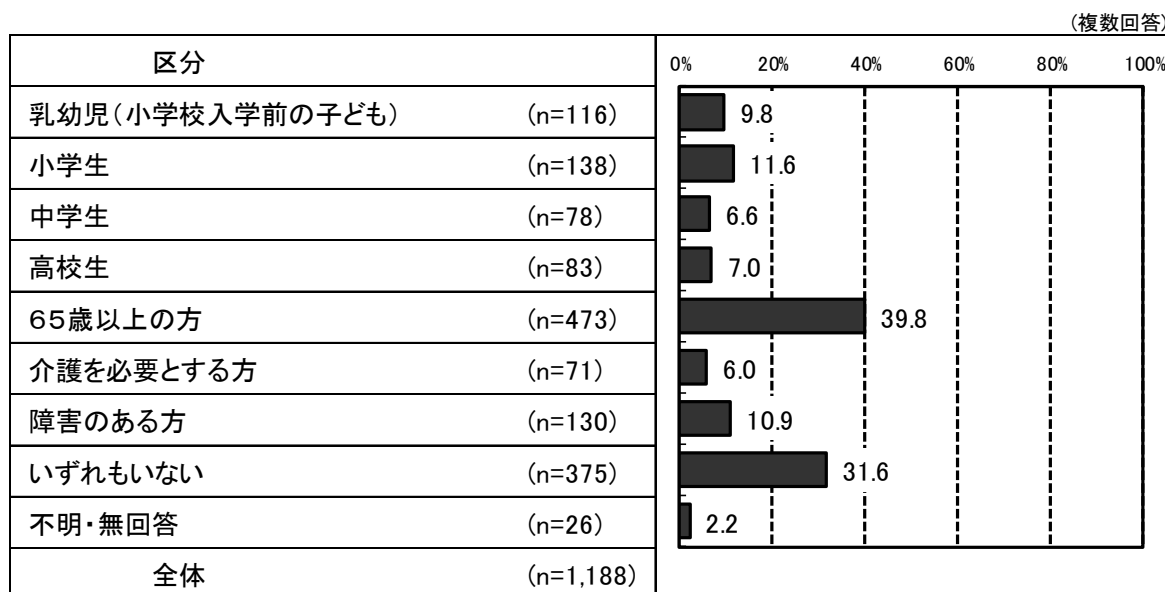
年齢別にみると、熟年層では「本人のみ」、「夫婦だけ」を合わせて59.8%となっている。

日常生活圏域別にみると、葛城の谷地域、牛滝の谷地域が「夫婦だけ」が他の地域より多くなっている。また、牛滝の谷地域は「親と子と孫の三世代」が他の地域より多くなっている。



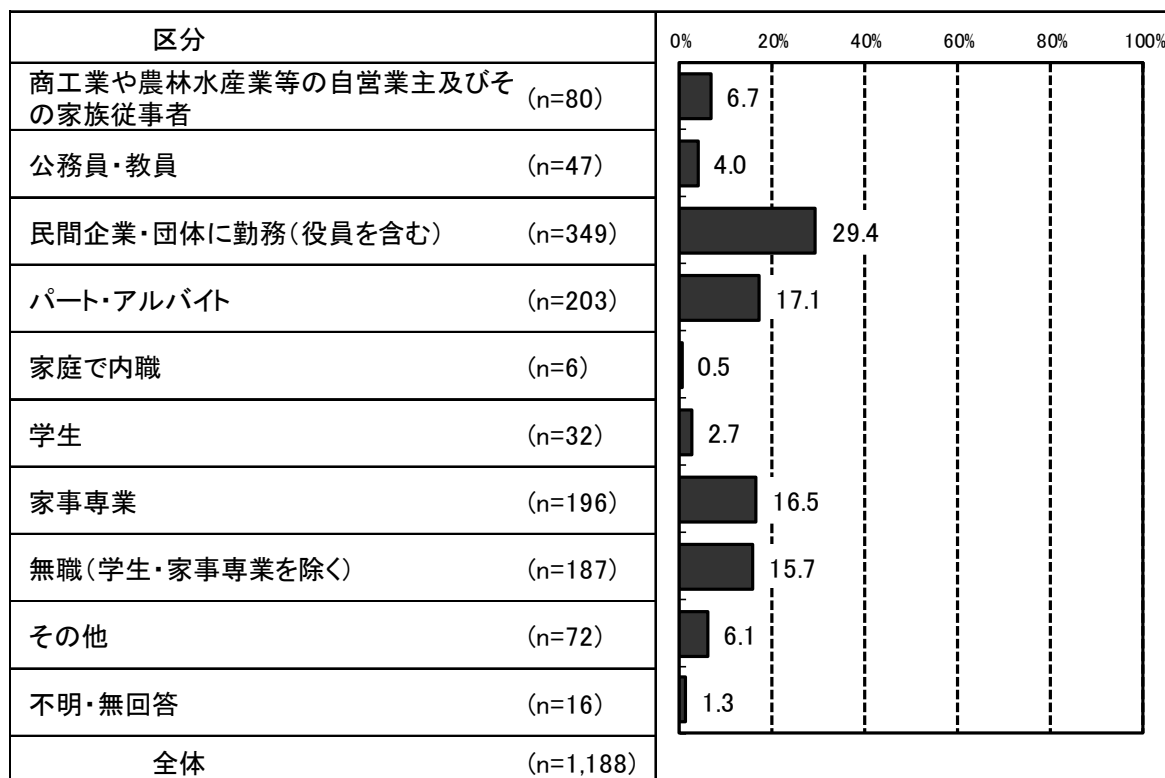
問3 現在一緒に住んでいるご家族の状況

「65歳以上の方」が39.8%で最も多く、次いで「いずれもない」が31.6%、「小学生」が11.6%となっている。



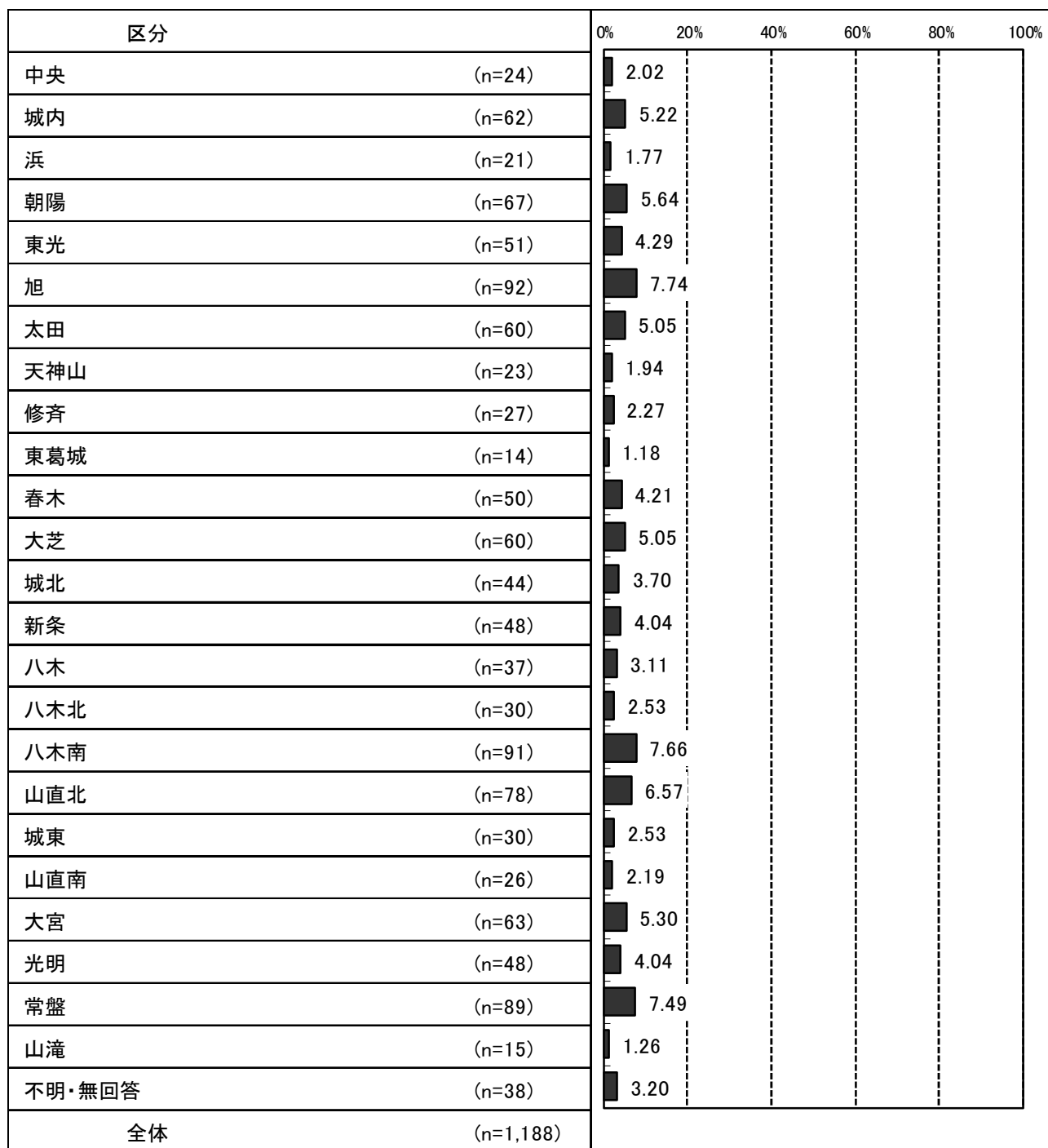
問4 職業

「民間企業・団体に勤務(役員を含む)」が29.4%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が17.1%、「家事専業」が16.5%となっている。

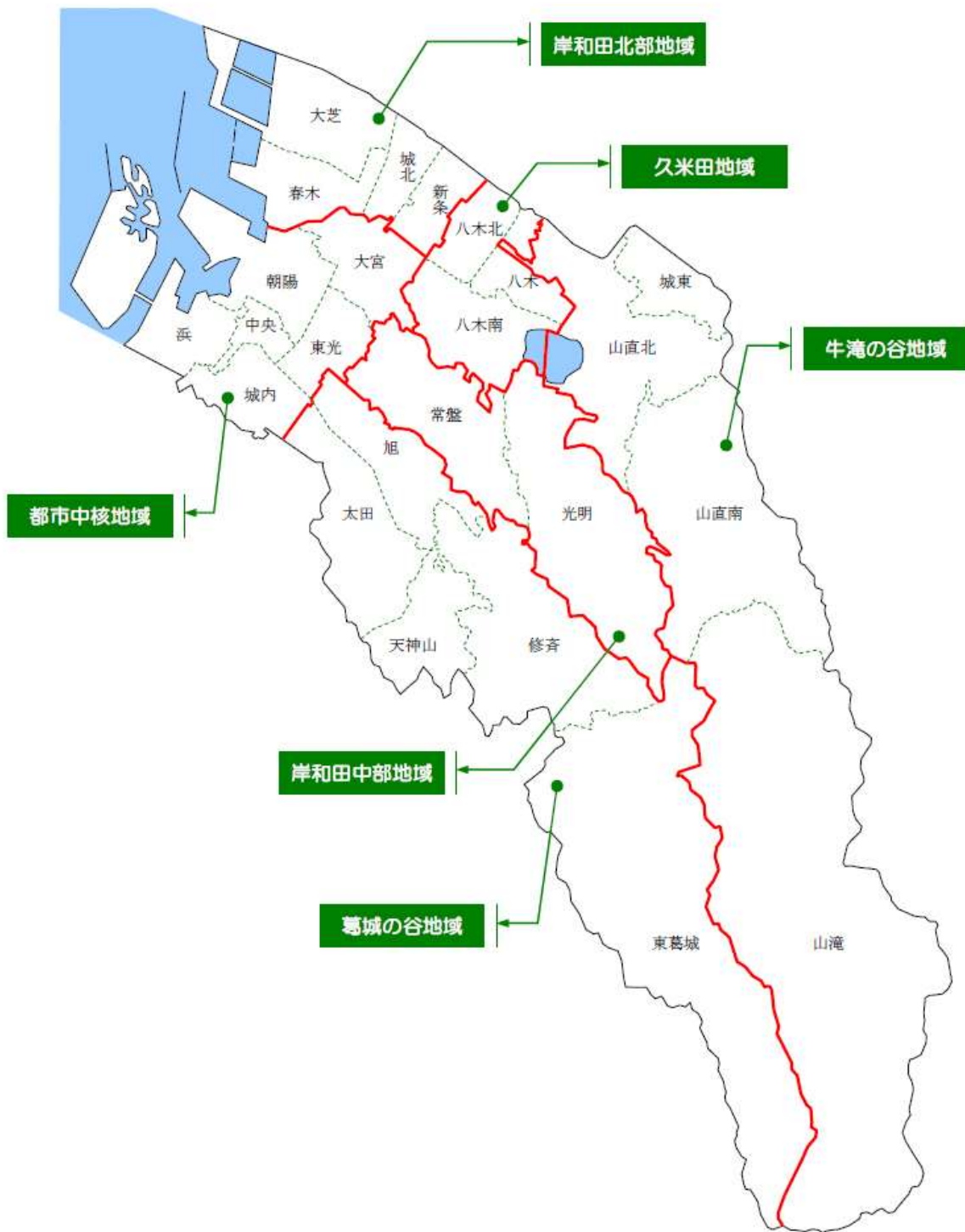
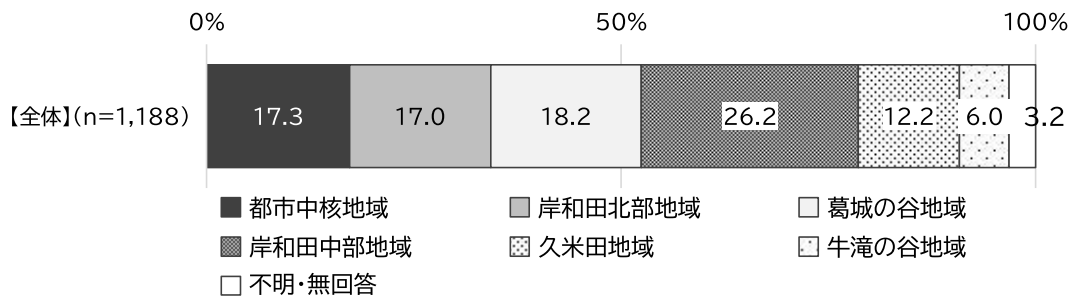


問5 小学校区

「旭」が7.74%で最も多く、次いで「八木南」が7.66%、「常盤」が7.49%となっている。

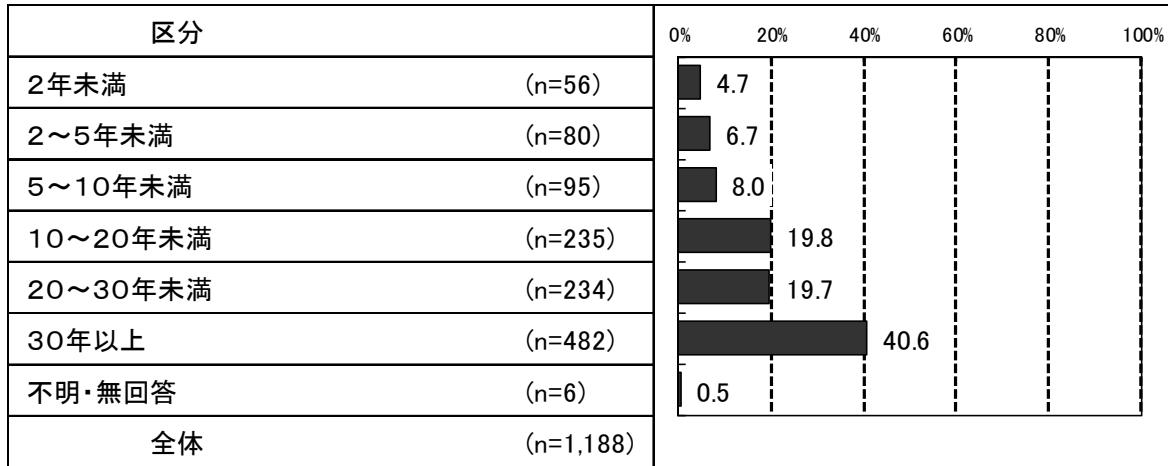


【参考】日常生活圏域



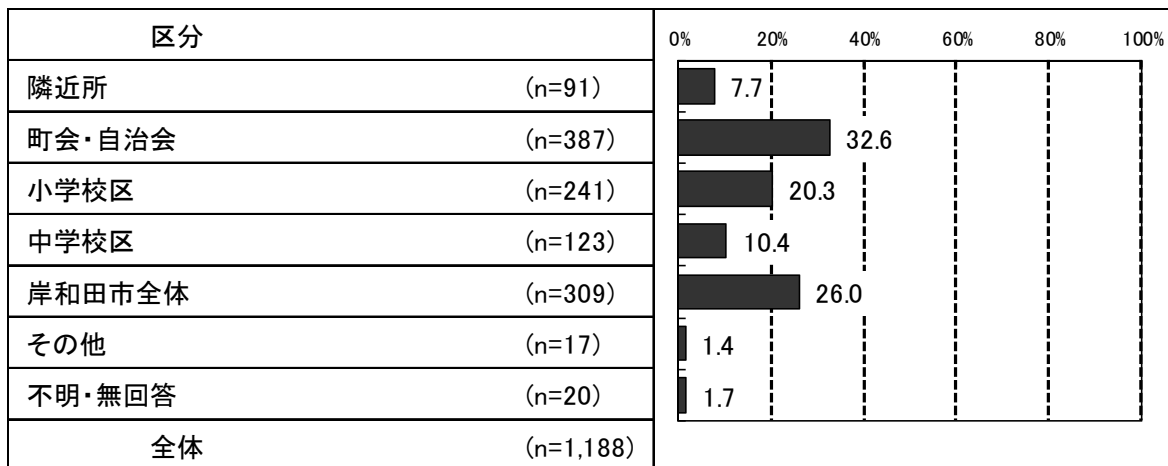
問6 居住年数

「30年以上」が40.6%で最も多く、次いで「10～20年未満」が19.8%、「20～30年未満」が19.7%となっている。



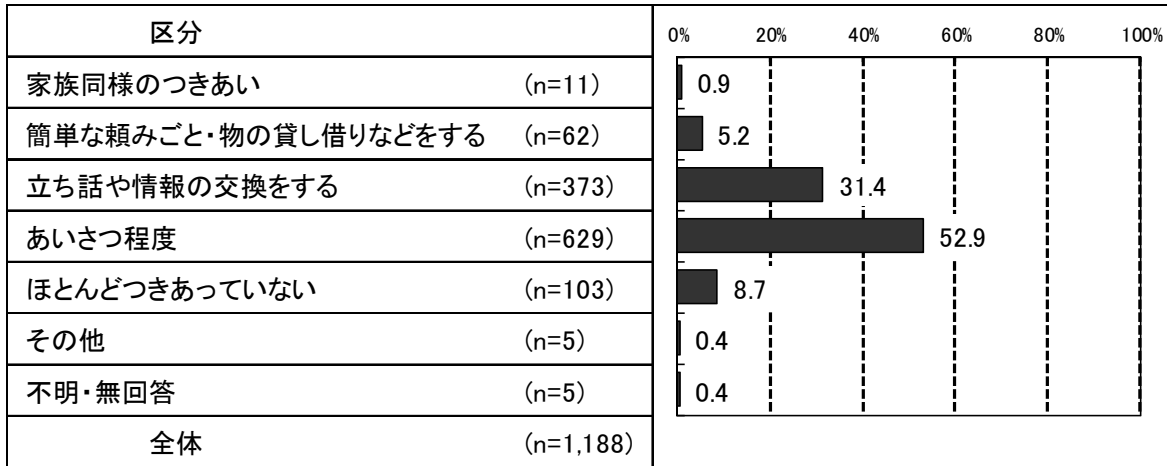
問7 あなたの考える「地域」の範囲

「町会・自治会」が32.6%で最も多く、次いで「岸和田市全体」が26.0%、「小学校区」が20.3%となっている。



問8 ご近所の人とどのようなつきあいをしていますか

「あいさつ程度」が52.9%で最も多く、次いで「立ち話や情報の交換をする」が31.4%、「ほとんどつきあっていない」が8.7%となっている。



●性別・年齢別クロス集計

男女別にみると、男女ともに「あいさつ程度」が最も多くなっている。「あいさつ程度」の男性の回答割合は女性を上回っている一方、「立ち話や情報の交換をする」の女性の回答割合は男性を上回っている。

年齢別にみると、年齢が上がるほど、つきあいの程度が高くなる傾向がある。「簡単な頼みごと・物の貸し借りなどをする」、「立ち話や情報の交換をする」では年齢が高くなるほど、回答割合が高くなる。一方、「あいさつ程度」、「ほとんどつきあっていない」では年齢が低くなるほど、回答割合が高くなっている。

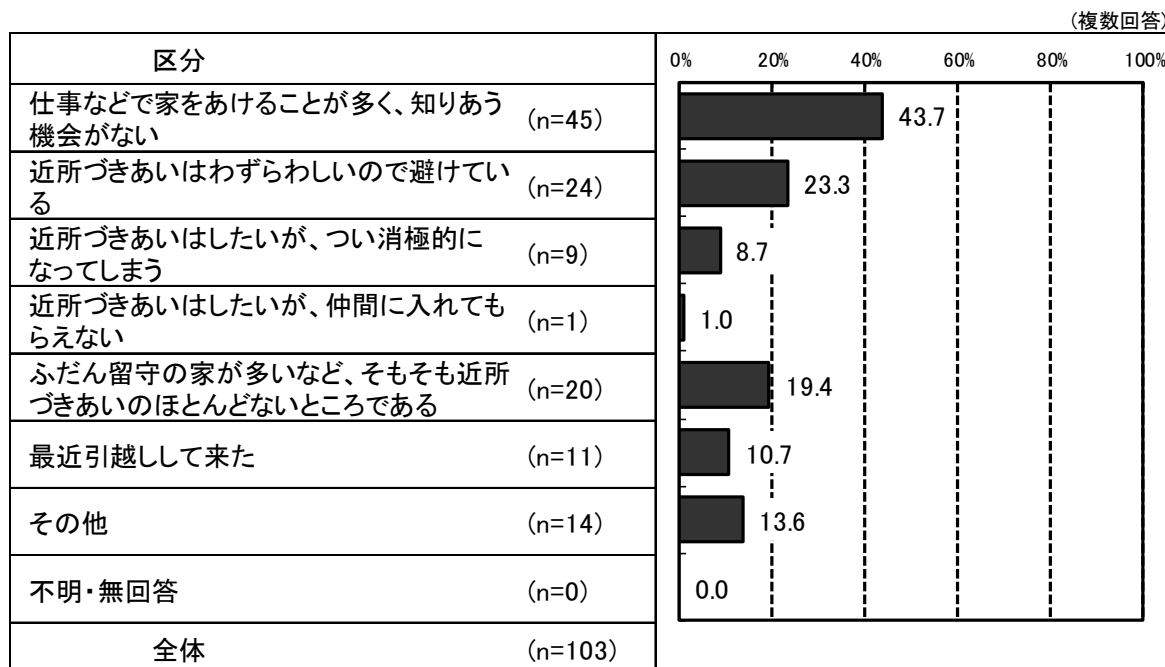
		合計(人)	家族同様のつきあい	物の貸し借りなどをする 簡単な頼みごと・	立ち話や情報の交換をする	あいさつ程度	ほとんどつきあっていない	その他	不明・無回答
	全体	1,188	0.9	5.2	31.4	52.9	8.7	0.4	0.4
性別	男性	580	1.6	5.0	25.5	57.9	9.5	0.3	0.2
	女性	591	0.3	5.6	37.7	48.1	8.0	0.3	0.0
	1、2以外	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
年齢3区分	青年層(18~39歳)	206	1.9	3.4	18.0	61.7	14.6	0.5	0.0
	壮年層(40~59歳)	450	0.2	3.8	28.9	57.1	9.6	0.2	0.2
	熟年層(60歳以上)	519	1.2	7.3	39.3	46.1	5.6	0.6	0.0

性別 p 値<0.01:「有意差あり」

年齢3区分 p 値<0.01:「有意差あり」

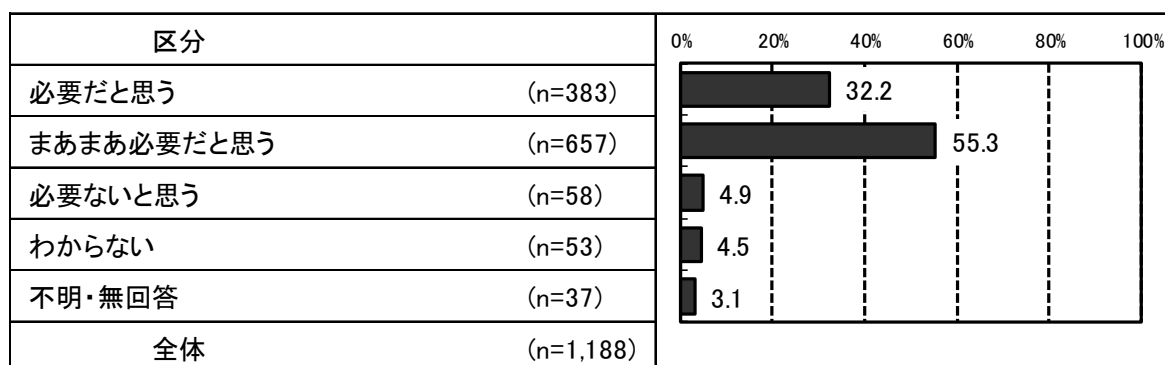
問8_1 あまり近所づきあいをされていない理由は何ですか

「仕事などで家をあけることが多く、知りあう機会がない」が43.7%で最も多く、次いで「近所づきあいはわずらわしいので避けている」が23.3%、「ふだん留守の家が多いなど、そもそも近所づきあいのほとんどないところである」が19.4%となっている。



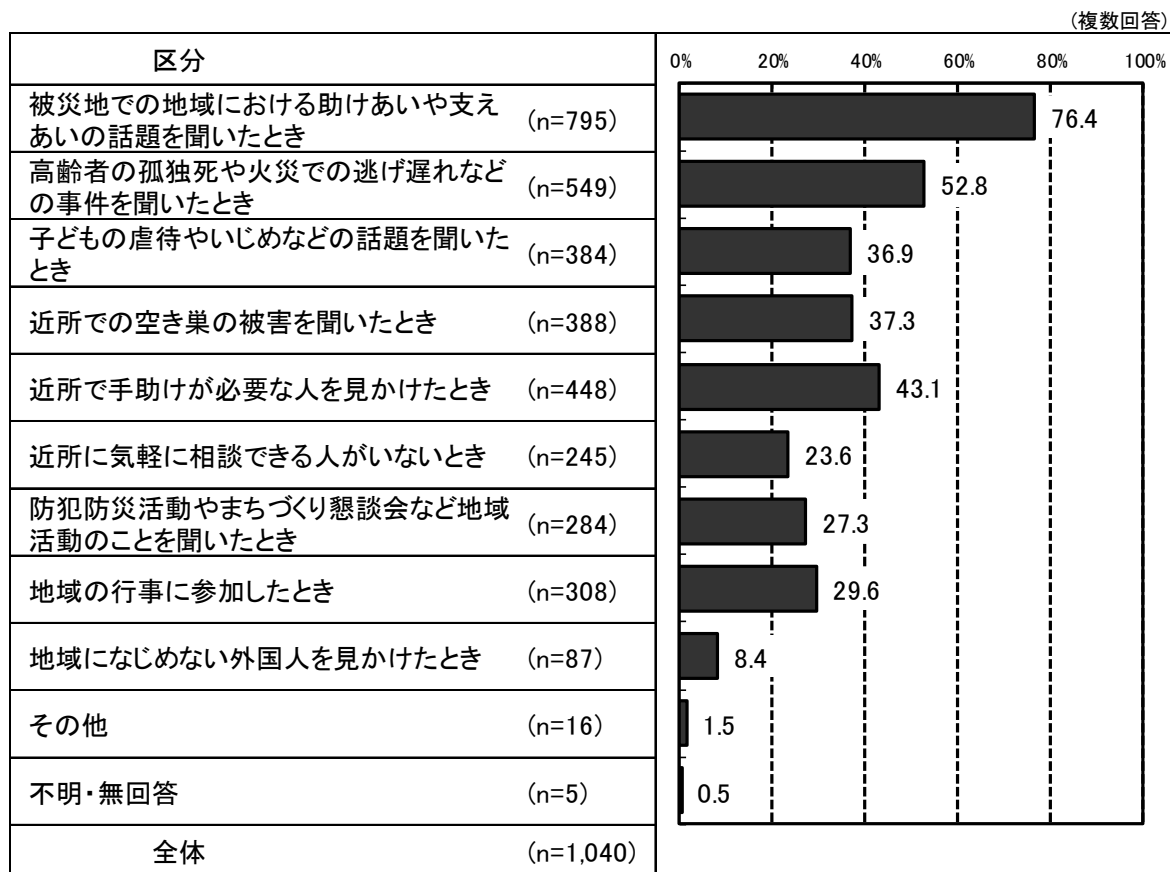
問9 地域での人とのつきあいや関わりが必要だと考えますか

「まあまあ必要だと思う」が55.3%で最も多く、次いで「必要だと思う」が32.2%、「必要ないと思う」が4.9%となっている。



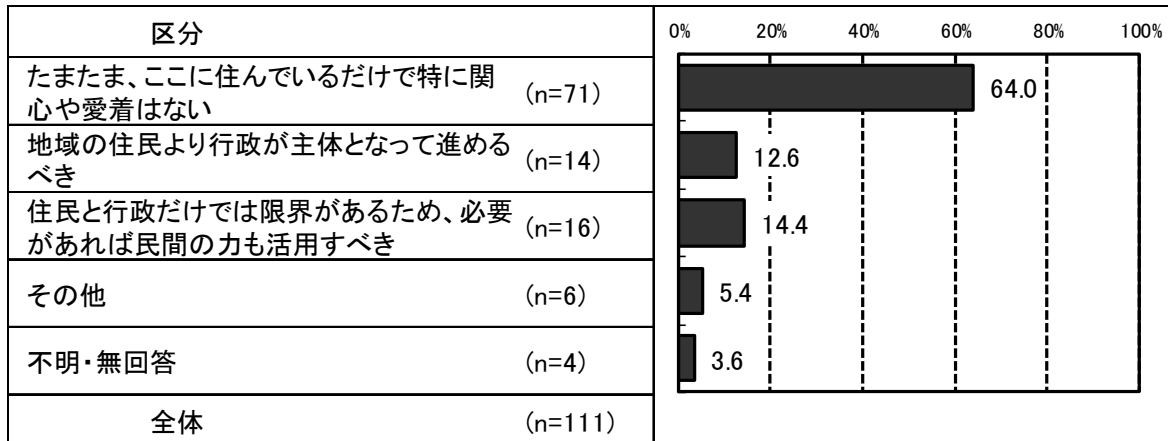
問9_1 どのようなときに地域との関わりの必要性を感じますか

「被災地での地域における助けあいや支えあいの話題を聞いたとき」が76.4%で最も多く、次いで「高齢者の孤独死や火災での逃げ遅れなどの事件を聞いたとき」が52.8%、「近所で手助けが必要な人を見かけたとき」が43.1%となっている。



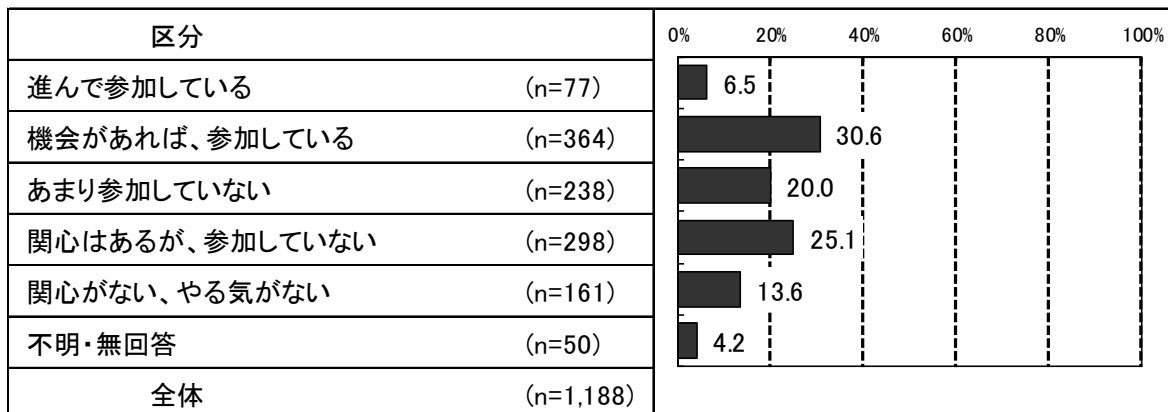
問9_2 「地域づくり」についてどのようにお考えですか

「たまたま、ここに住んでいるだけで特に関心や愛着はない」が64.0%で最も多く、次いで「住民と行政だけでは限界があるため、必要があれば民間の力も活用すべき」が14.4%、「地域の住民より行政が主体となって進めるべき」が12.6%となっている。



問10 地域の行事や活動等に参加していますか

「機会があれば、参加している」が30.6%で最も多く、次いで「関心はあるが、参加していない」が25.1%、「あまり参加していない」が20.0%となっている。



●性別・年齢別クロス集計

男女別にみると、男女ともに「機会があれば、参加している」が最も多くなっている。女性の「機会があれば、参加している」の回答割合は男性を上回っている一方、男性の「進んで参加している」の回答割合は女性を上回っています。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど、「機会があれば、参加している」の回答割合が高くなる。一方、「あまり参加していない」では年齢が低くなるほど、回答割合が高くなっている。

		合計（人）	進んで参加している	機会があれば、参加している	あまり参加していない	関心はあるが、参加していない	関心がない、やる気がない	不明・無回答
	全体	1,188	6.5	30.6	20.0	25.1	13.6	4.2
性別	男性	580	10.0	26.2	21.9	22.8	14.5	4.7
	女性	591	3.0	35.2	18.3	27.1	12.7	3.7
	1、2以外	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
年齢3区分	青年層(18～39歳)	206	2.9	16.5	23.8	28.2	27.2	1.5
	壮年層(40～59歳)	450	6.2	31.1	20.2	23.8	13.8	4.9
	熟年層(60歳以上)	519	8.1	35.6	18.5	24.9	8.1	4.8

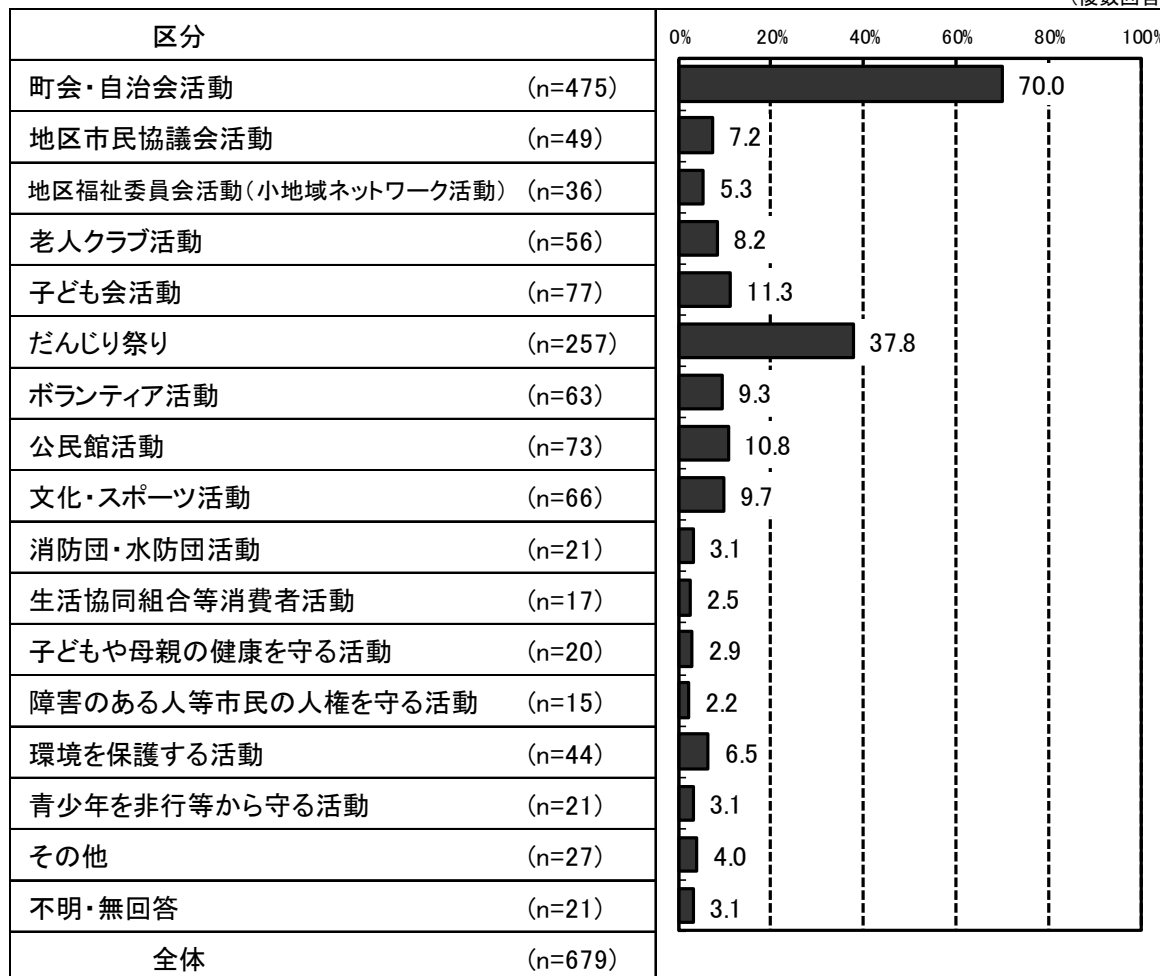
性別 p 値<0.01:「有意差あり」

年齢3区分 p 値<0.01:「有意差あり」

問10_1 それはどのような活動ですか

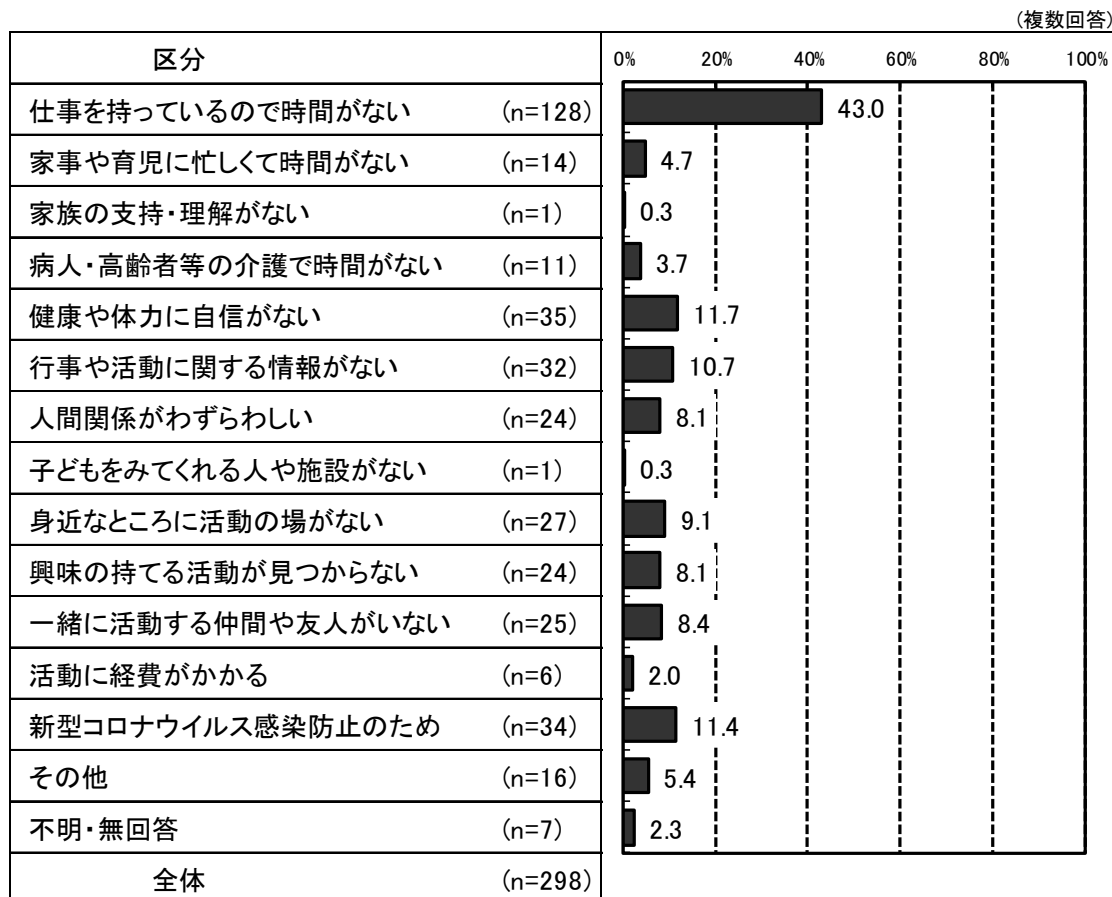
「町会・自治会活動」が70.0%で最も多く、次いで「だんじり祭り」が37.8%、「子ども会活動」が11.3%となっている。

(複数回答)



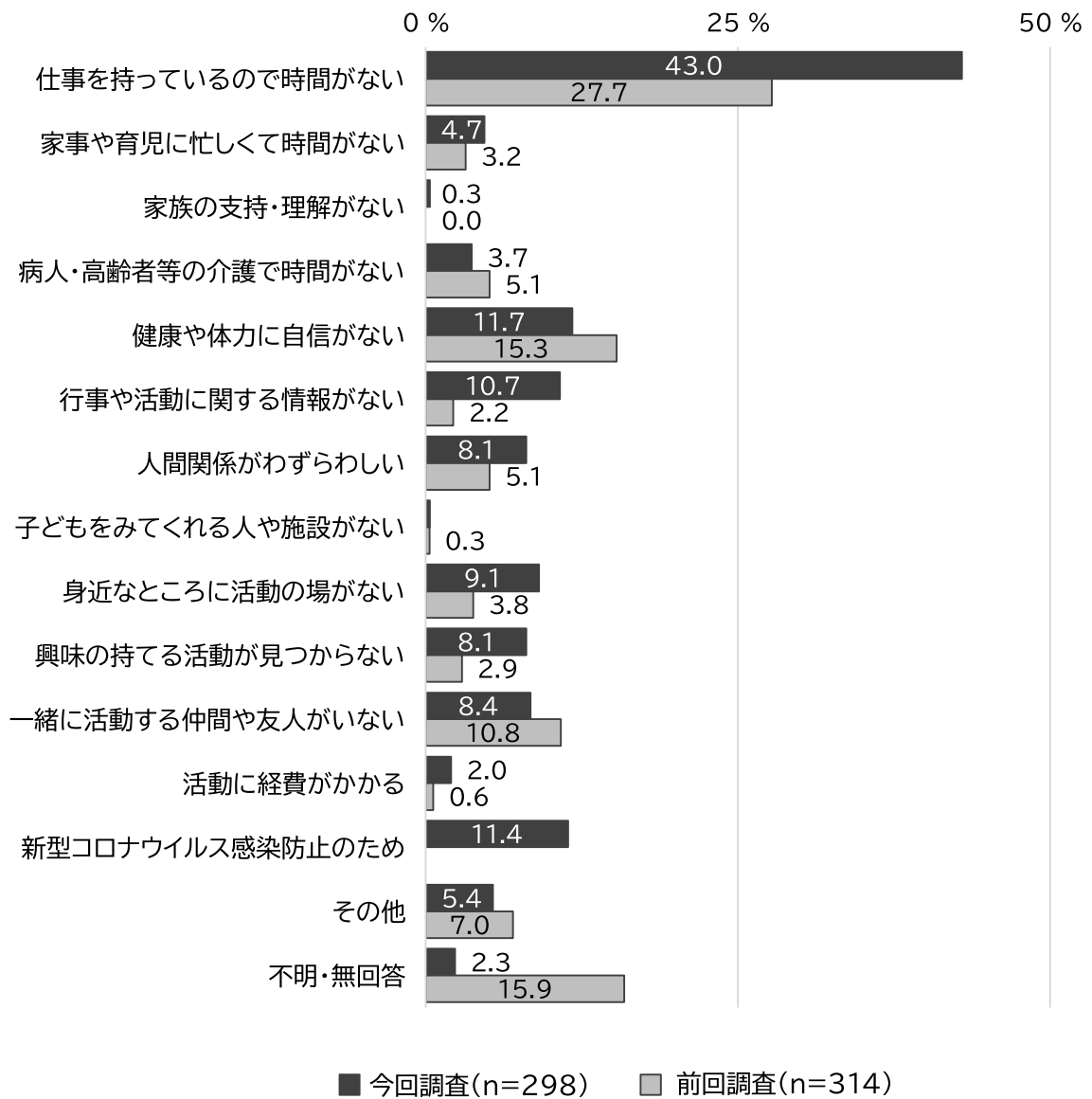
問10_2 参加されない理由を教えてください

「仕事を持っているので時間がない」が43.0%で最も多く、次いで「健康や体力に自信がない」が11.7%、「新型コロナウイルス感染防止のため」が11.4%となっている。



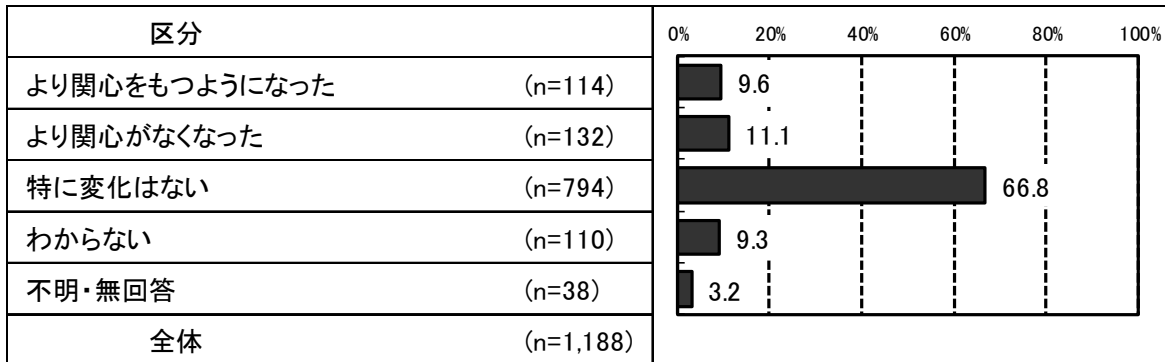
●前回調査との比較

前回調査においても、「仕事を持っているので時間がない」が最も多くなっていますが、回答割合が前回調査の27.7%から43.3%に増加しています。



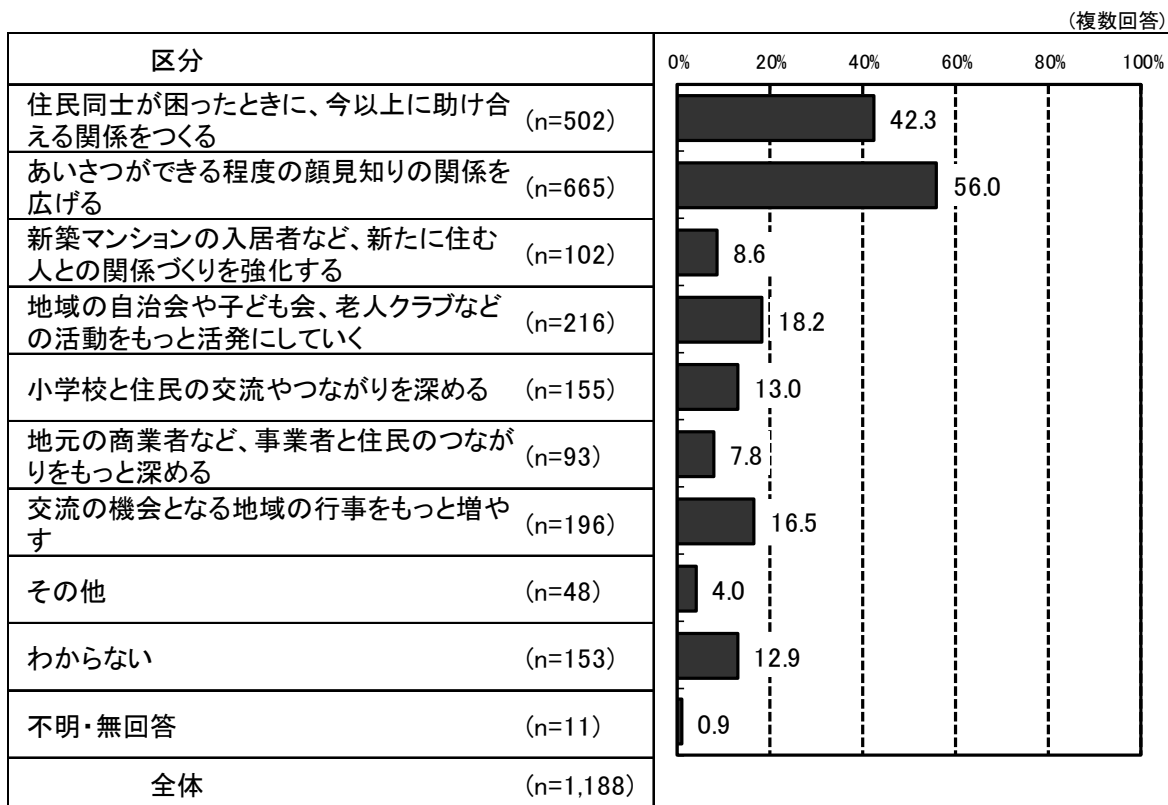
問11 地域活動への関心は、どのように変化したと感じますか

「特に変化はない」が66.8%で最も多く、次いで「より関心がなくなった」が11.1%、「より関心をもつようになった」が9.6%となっている。



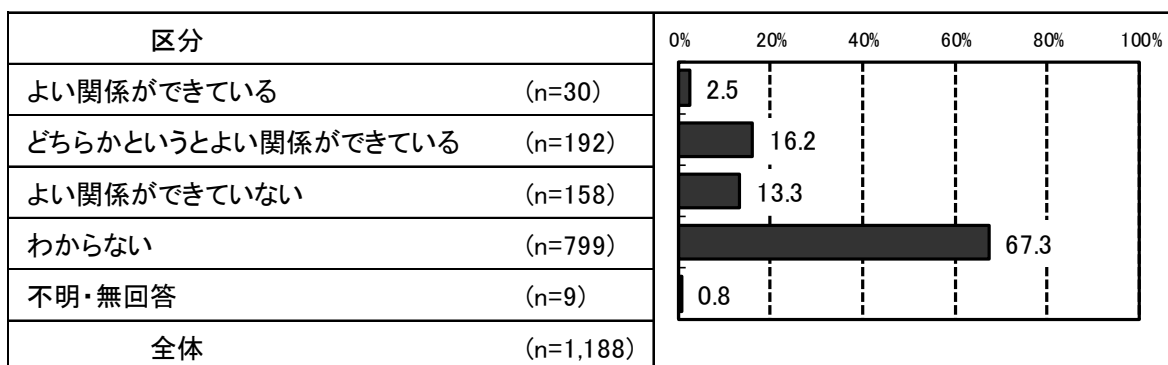
問12 地域活動が活発になるためには、どのようなことが大切ですか

「あいさつができる程度の顔見知りの関係を広げる」が56.0%で最も多く、次いで「住民同士が困ったときに、今以上に助け合える関係をつくる」が42.3%、「地域の自治会や子ども会、老人クラブなどの活動をもっと活発にしていく」が18.2%となっている。



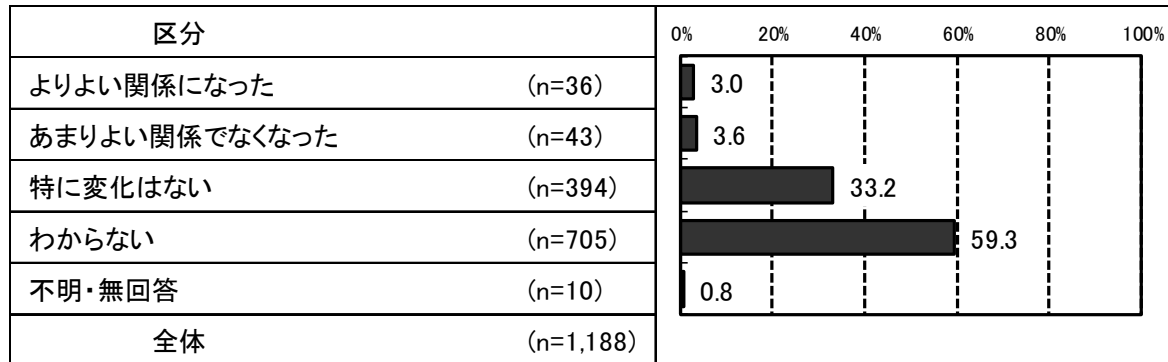
問13 市行政と住民との協働について、どのように感じていますか

「わからない」が67.3%で最も多く、次いで「どちらかというとい関係ができている」が16.2%、「よい関係ができていない」が13.3%となっている。



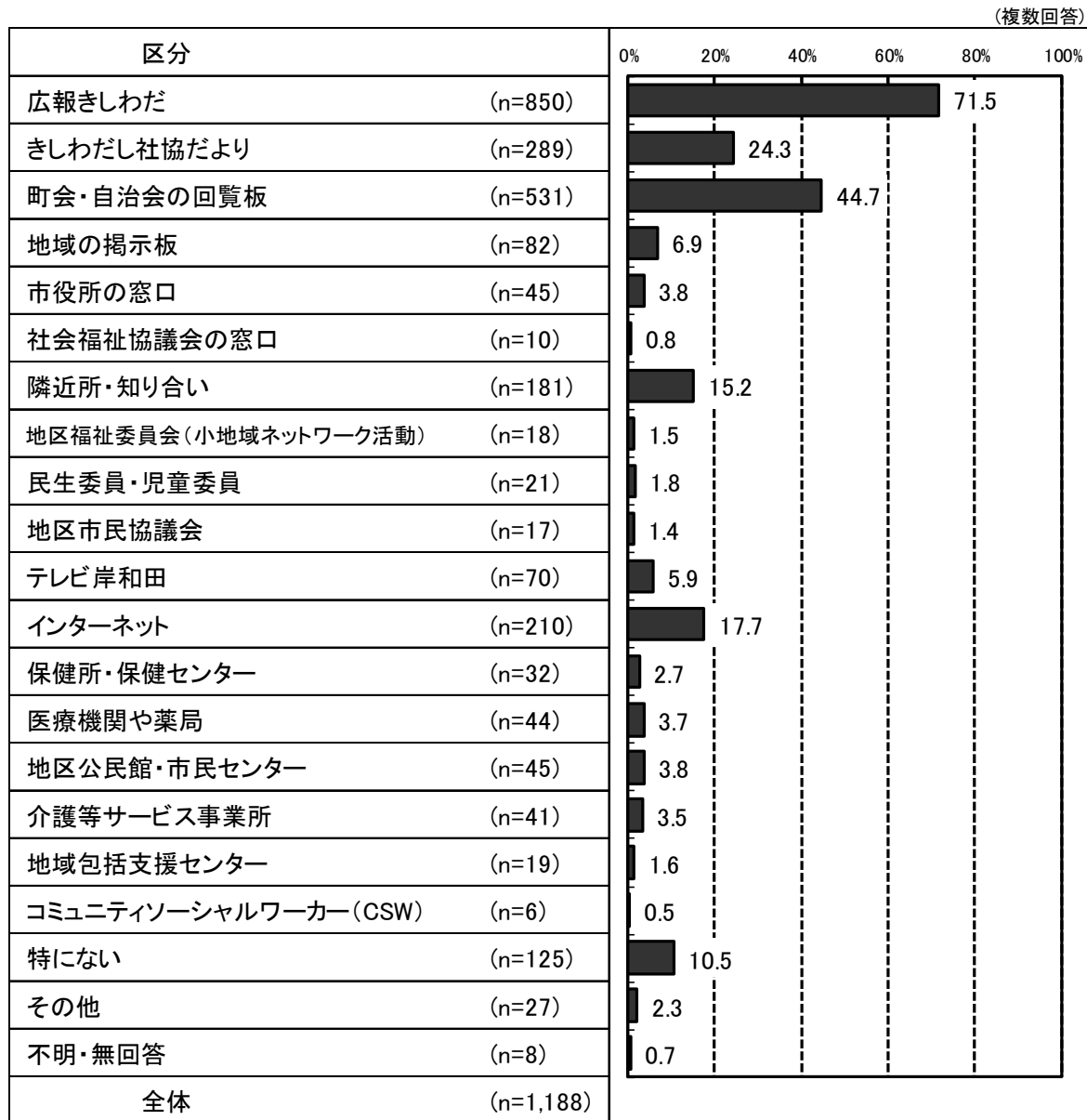
問14 市行政と住民との協働は、どのように変化したと感じますか

「わからない」が59.3%で最も多く、次いで「特に変化はない」が33.2%、「あまりよい関係でなくなった」が3.6%となっている。



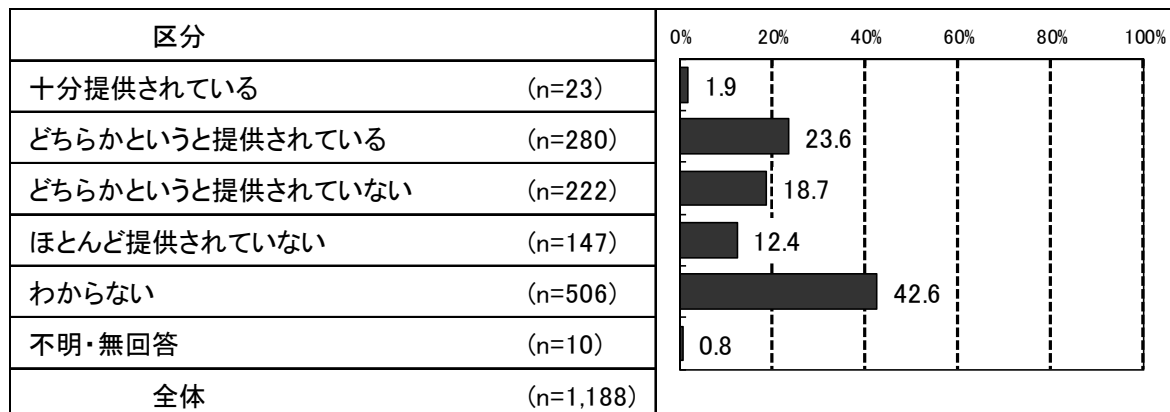
問15 福祉関連の情報をどこから入手していますか

「広報きしわだ」が71.5%で最も多く、次いで「町会・自治会の回覧板」が44.7%、「きしわだし社協だより」が24.3%となっている。



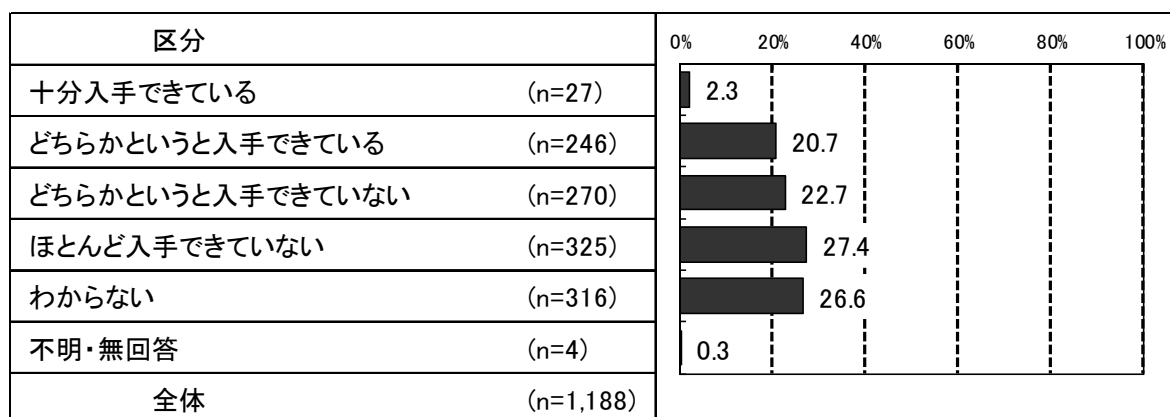
問16 福祉関連情報の提供について、どのように感じていますか

「わからない」が42.6%で最も多く、次いで「どちらかというと提供されている」が23.6%、「どちらかというと提供されていない」が18.7%となっている。



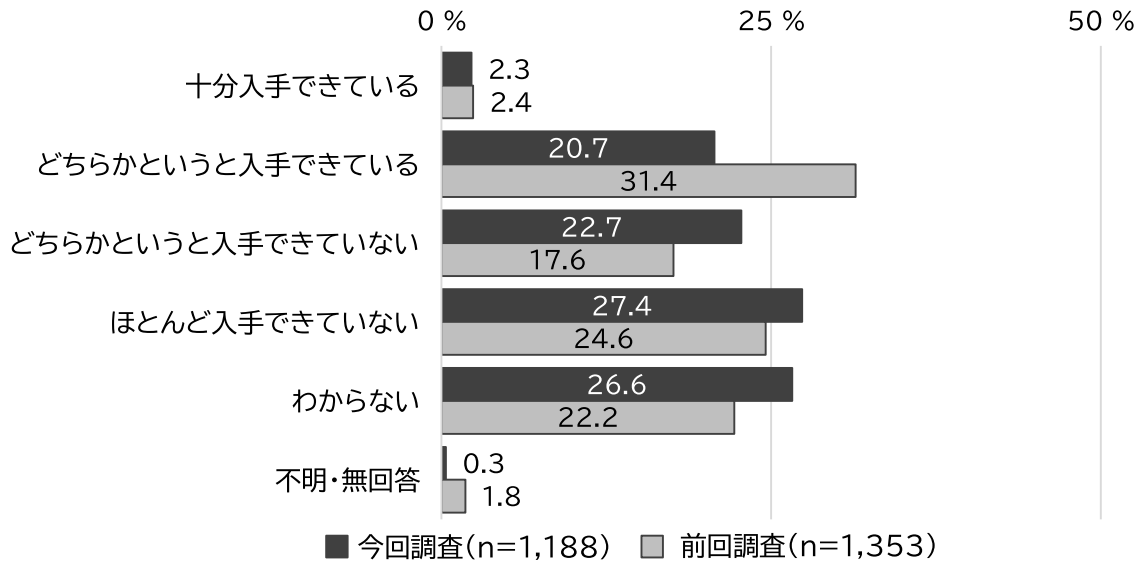
問17 必要な福祉サービス情報を、十分入手できていますか

「ほとんど入手できていない」が27.4%で最も多く、次いで「わからない」が26.6%、「どちらかというと入手できていない」が22.7%となっている。



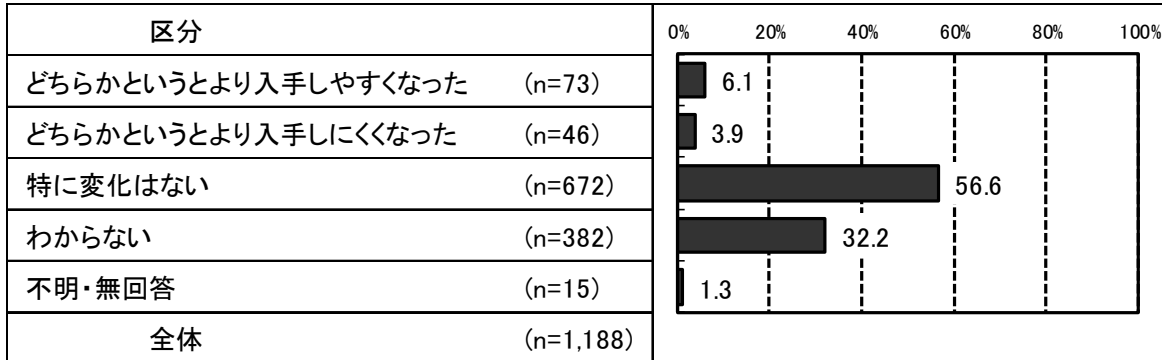
●前回調査との比較

前回調査において、「どちらかという入手できている」の回答割合が前回調査の 31.4%から 20.7%に減少しています。



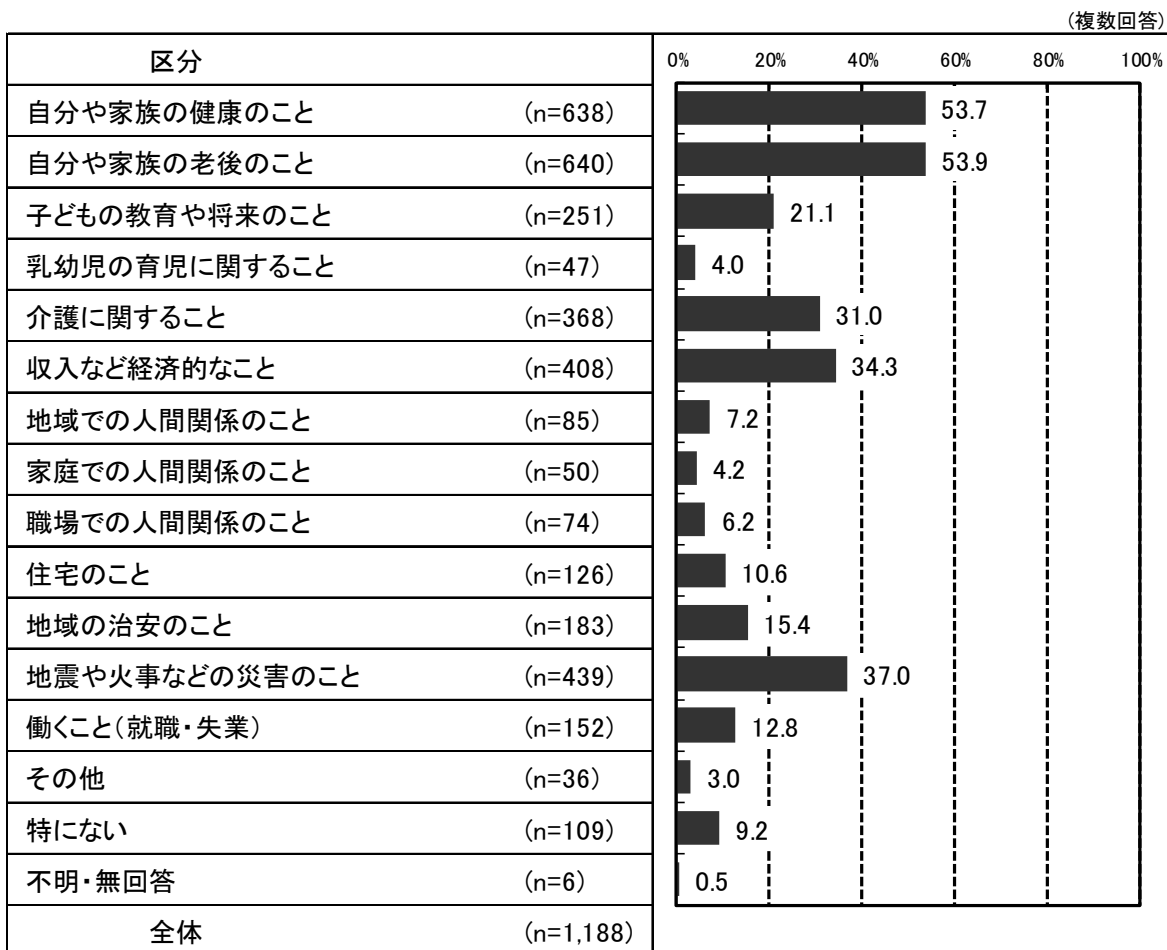
問18 福祉サービス情報の入手は、どのように変化したと感じますか

「特に変化はない」が56.6%で最も多く、次いで「わからない」が32.2%、「どちらかという
とより入手しやすくなった」が6.1%となっている。



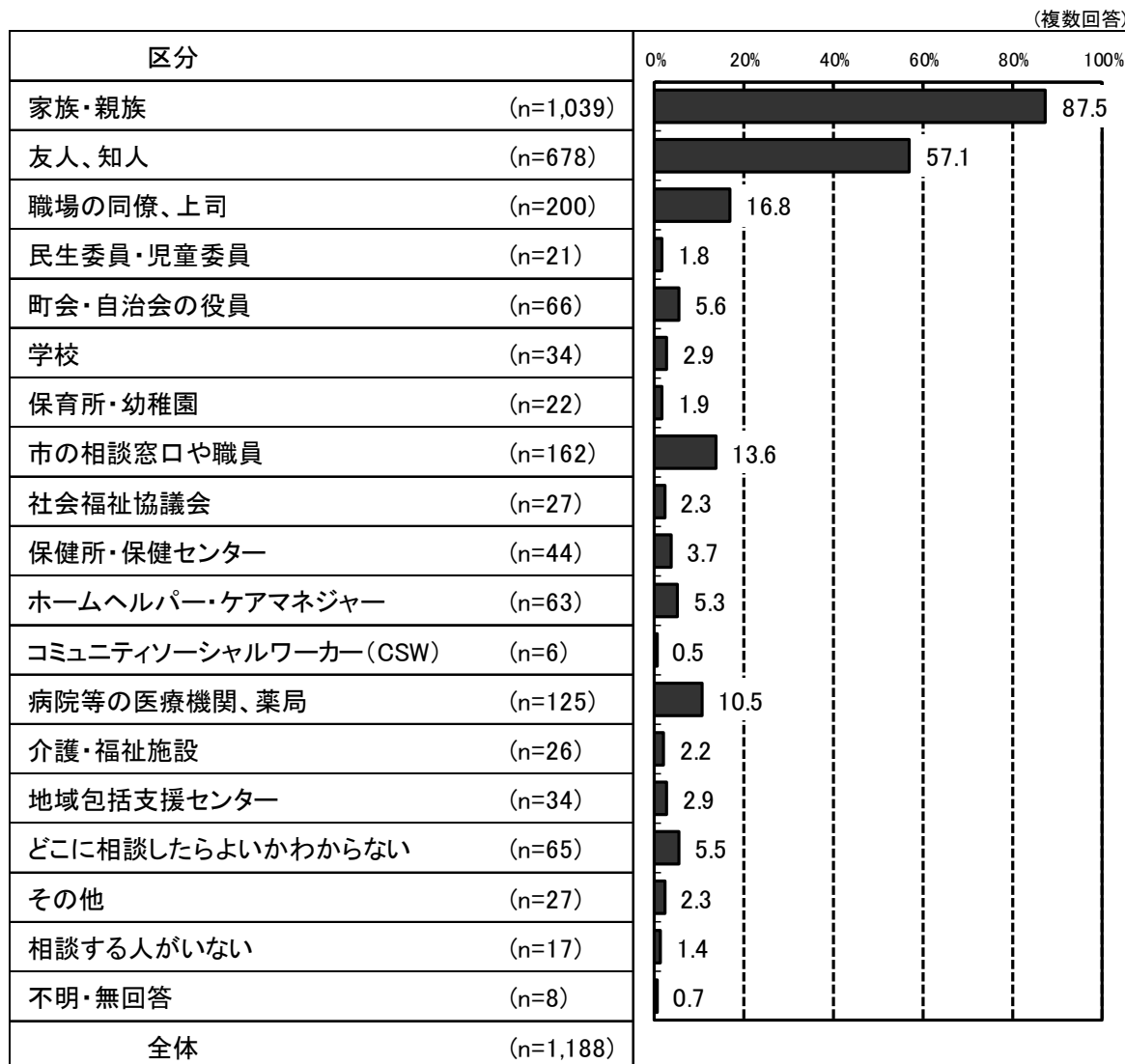
問19 日頃の生活でどのようなことに悩みや不安を感じていますか

「自分や家族の老後のこと」が53.9%で最も多く、次いで「自分や家族の健康のこと」が53.7%、
「地震や火事などの災害のこと」が37.0%となっている。



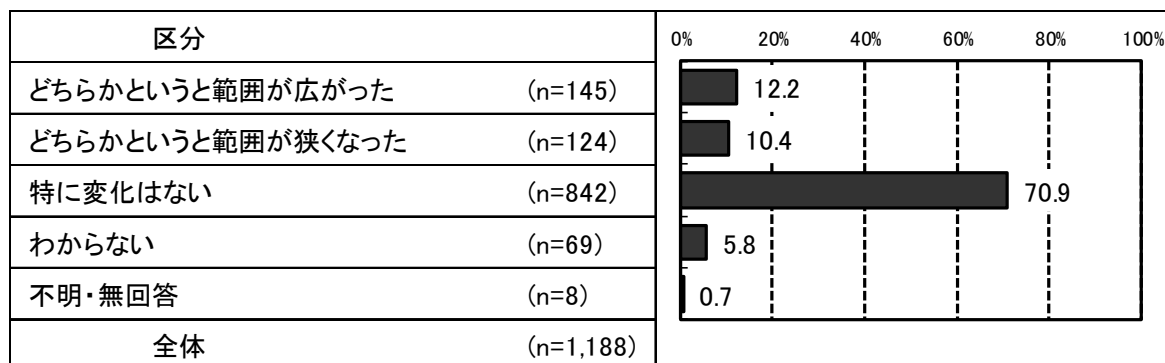
問20 困ったとき、だれに相談しますか

「家族・親族」が87.5%で最も多く、次いで「友人、知人」が57.1%、「職場の同僚、上司」が16.8%となっている。



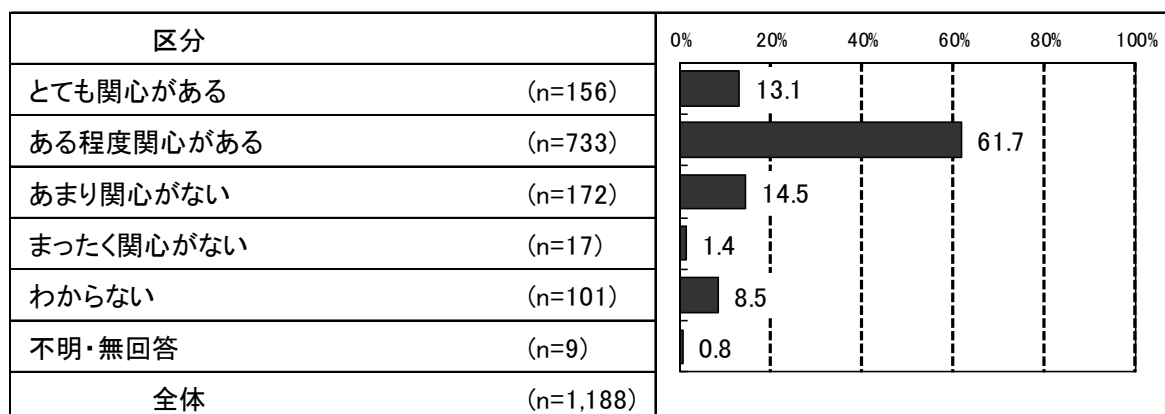
問21 相談先は、以前と比べてどのように変化したと感じますか

「特に変化はない」が70.9%で最も多く、次いで「どちらかという範囲が広がった」が12.2%、「どちらかという範囲が狭くなった」が10.4%となっている。



問22 地域の福祉課題に関心をお持ちですか

「ある程度関心がある」が61.7%で最も多く、次いで「あまり関心がない」が14.5%、「とても関心がある」が13.1%となっている。



●性別・年齢別クロス集計

男女別にみると、「とても関心がある」、「ある程度関心がある」の女性の回答割合が男性より高くなっている一方、「あまり関心がない」、「まったく関心がない」の男性の回答割合は女性より高くなっている。

年齢別にみると、「とても関心がある」、「ある程度関心がある」の回答割合が年齢が上がるほど高くなる一方、「あまり関心がない」、「まったく関心がない」の回答割合は年齢が下がるほど低くなっている。

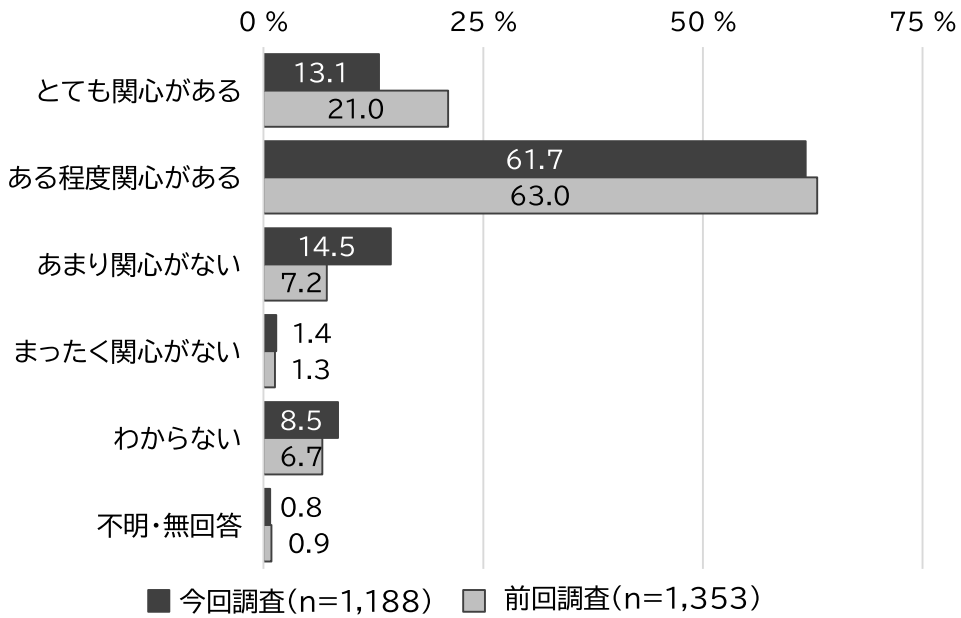
		合計（人）	とても関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない	わからない	不明・無回答
	全体	1,188	13.1	61.7	14.5	1.4	8.5	0.8
性別	男性	580	11.7	56.9	18.3	2.8	9.5	0.9
	女性	591	14.6	66.2	10.7	0.2	7.8	0.7
	1、2以外	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢3区分	青年層(18～39歳)	206	10.7	52.4	19.4	3.9	13.6	0.0
	壮年層(40～59歳)	450	11.1	62.7	15.3	1.6	8.4	0.9
	熟年層(60歳以上)	519	15.8	64.2	11.9	0.4	6.7	1.0

性別 p 値<0.01:「有意差あり」

年齢3区分 p 値<0.01:「有意差あり」

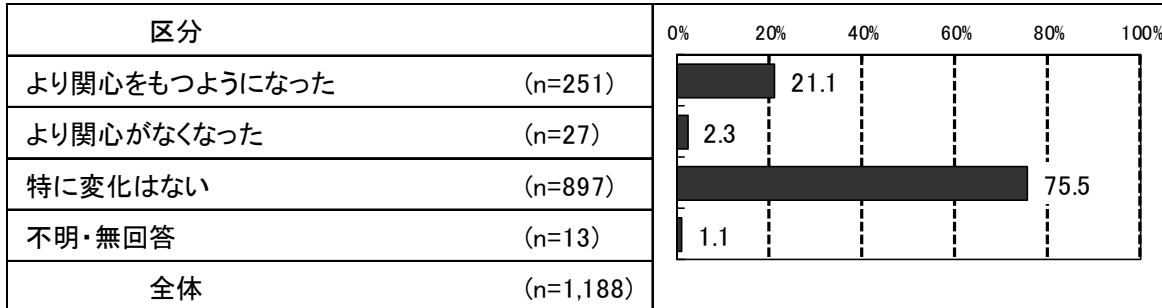
●前回調査との比較

前回調査において、「とても関心がある」の回答割合が前回調査の21.0%から13.1%に減少しています。一方、「あまり関心がない」の回答割合が前回調査の7.2%から14.5%まで増加しています。



問23 福祉課題への関心について、どのように変化したと感じますか

「特に変化はない」が75.5%で最も多く、次いで「より関心をもつようになった」が21.1%、「より関心がなくなった」が2.3%となっている。



●性別クロス集計

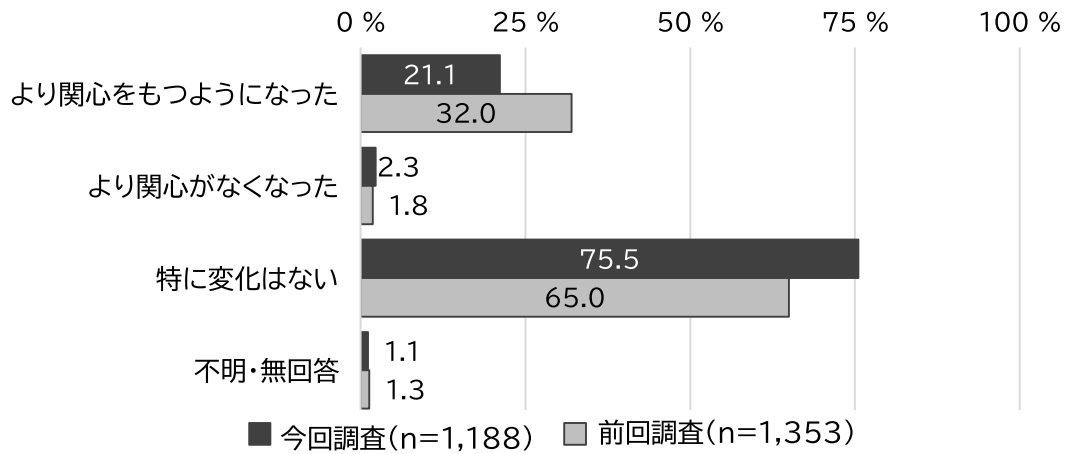
男女別にみると、男女ともに「特に変化はない」が最も高くなっている。「より関心をもつようになった」では、女性の回答割合が男性より高くなっている。

	合計（人）	より関心をもつようになった	より関心がなくなった	特に変化はない	不明・無回答
全体	1,188	21.1	2.3	75.5	1.1
男性	580	17.6	1.7	79.7	1.0
女性	591	24.4	2.7	71.7	1.2
1、2以外	1	100.0	0.0	0.0	0.0

性別 p 値<0.01:「有意差あり」

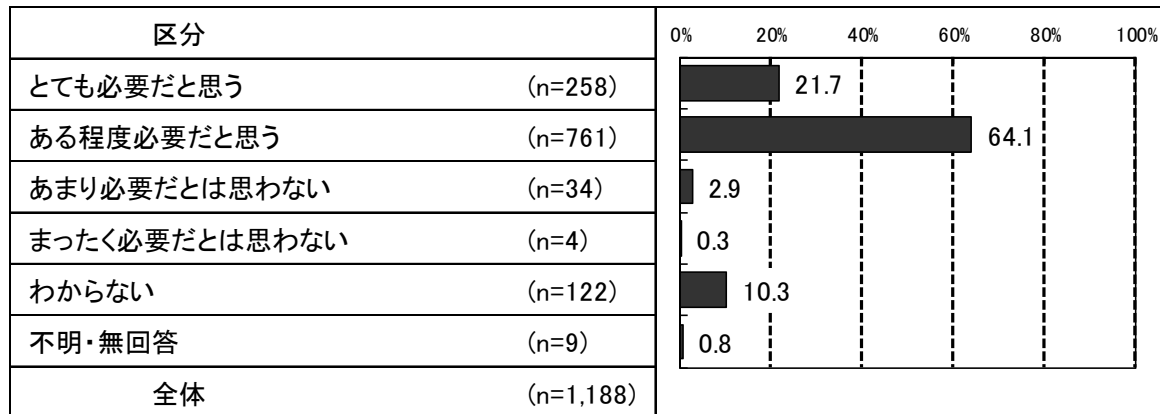
●前回調査との比較

前回調査において、「より関心をもつようになった」の回答割合が前回調査の32.0%から21.1%に減少しています。一方、「特に変化はない」の回答割合が前回調査の65.0%から75.5%まで増加しています。



問24 福祉課題に対し、助けあいの必要性についてどう思いますか

「ある程度必要だと思う」が64.1%で最も多く、次いで「とても必要だと思う」が21.7%、「わからない」が10.3%となっている。



●年齢別クロス集計

年齢別にみると、どの年齢層ともに「ある程度必要だと思う」が最も高くなっている。「とても必要だと思う」では、熟年層（60歳以上）が他の年齢層より高くなっている。

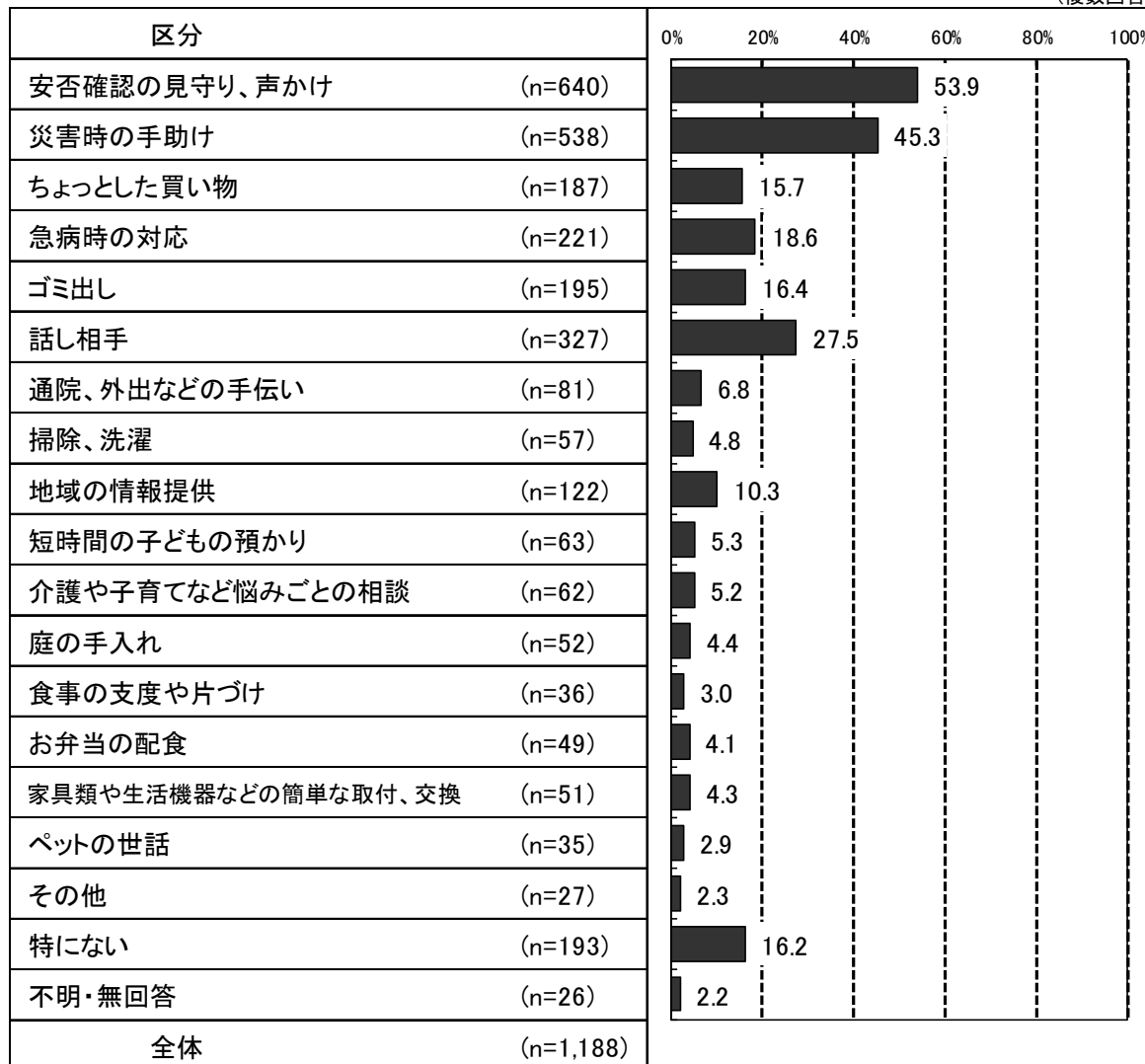
	合計（人）	とても必要だと思う	ある程度必要だと思う	あまり必要だとは思わない	まったく必要だとは思わない	わからない	不明・無回答
全体	1188	21.7	64.1	2.9	0.3	10.3	0.8
青年層(18～39歳)	206	21.4	60.2	3.4	1.5	13.1	0.5
壮年層(40～59歳)	450	18.2	69.1	2.0	0.2	9.8	0.7
熟年層(60歳以上)	519	24.9	60.9	3.5	0.0	9.8	1.0

年齢3区分 p 値<0.01:「有意差あり」

問25 地域で安心して暮らせるためにあなたができることはありますか

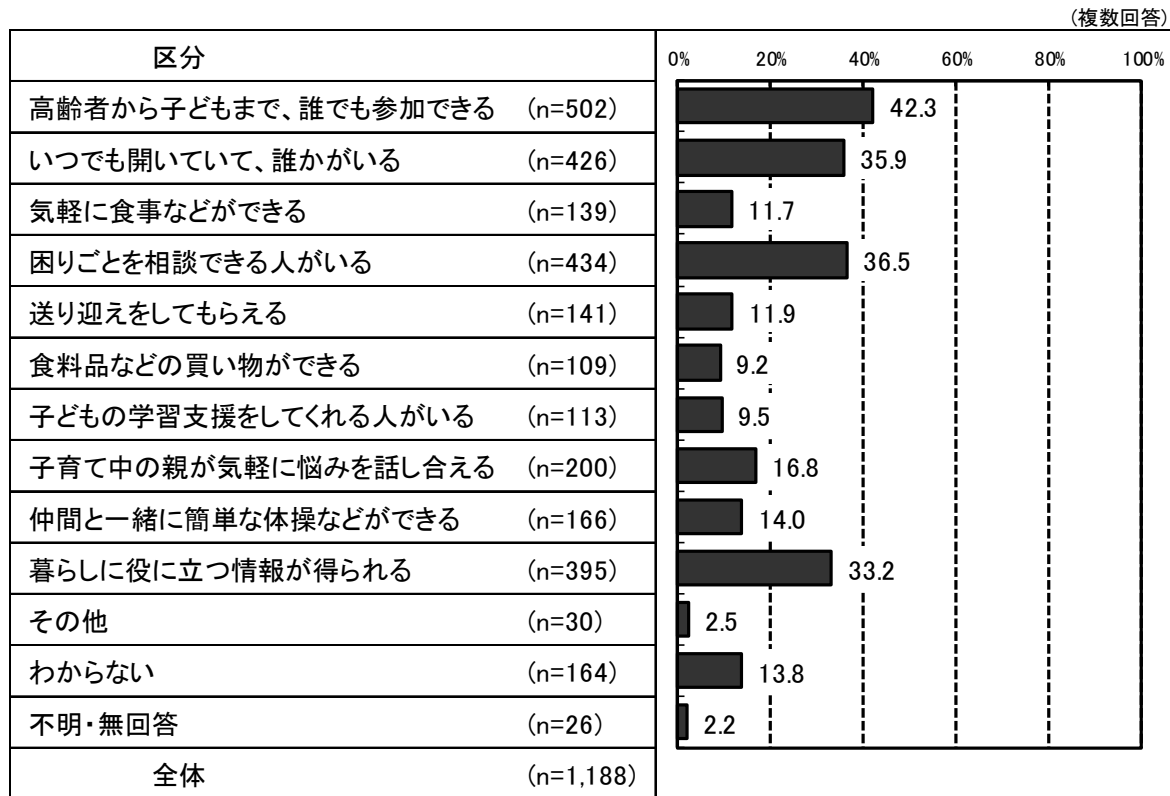
「安否確認の見守り、声かけ」が53.9%で最も多く、次いで「災害時の手助け」が45.3%、「話し相手」が27.5%となっている。

(複数回答)



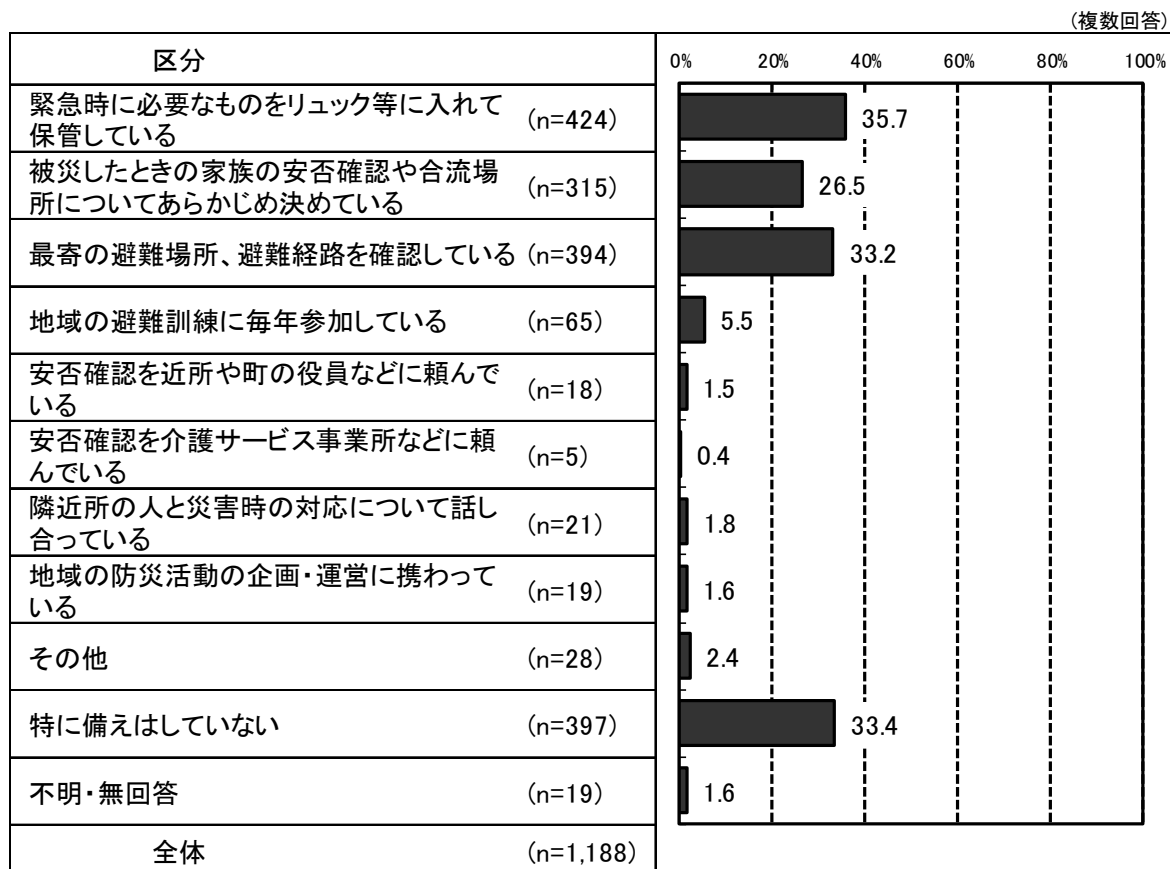
問26 地域において、どのような集える場所が必要だと思いますか

「高齢者から子どもまで、誰でも参加できる」が42.3%で最も多く、次いで「困りごとを相談できる人がいる」が36.5%、「いつでも開いていて、誰かがいる」が35.9%となっている。



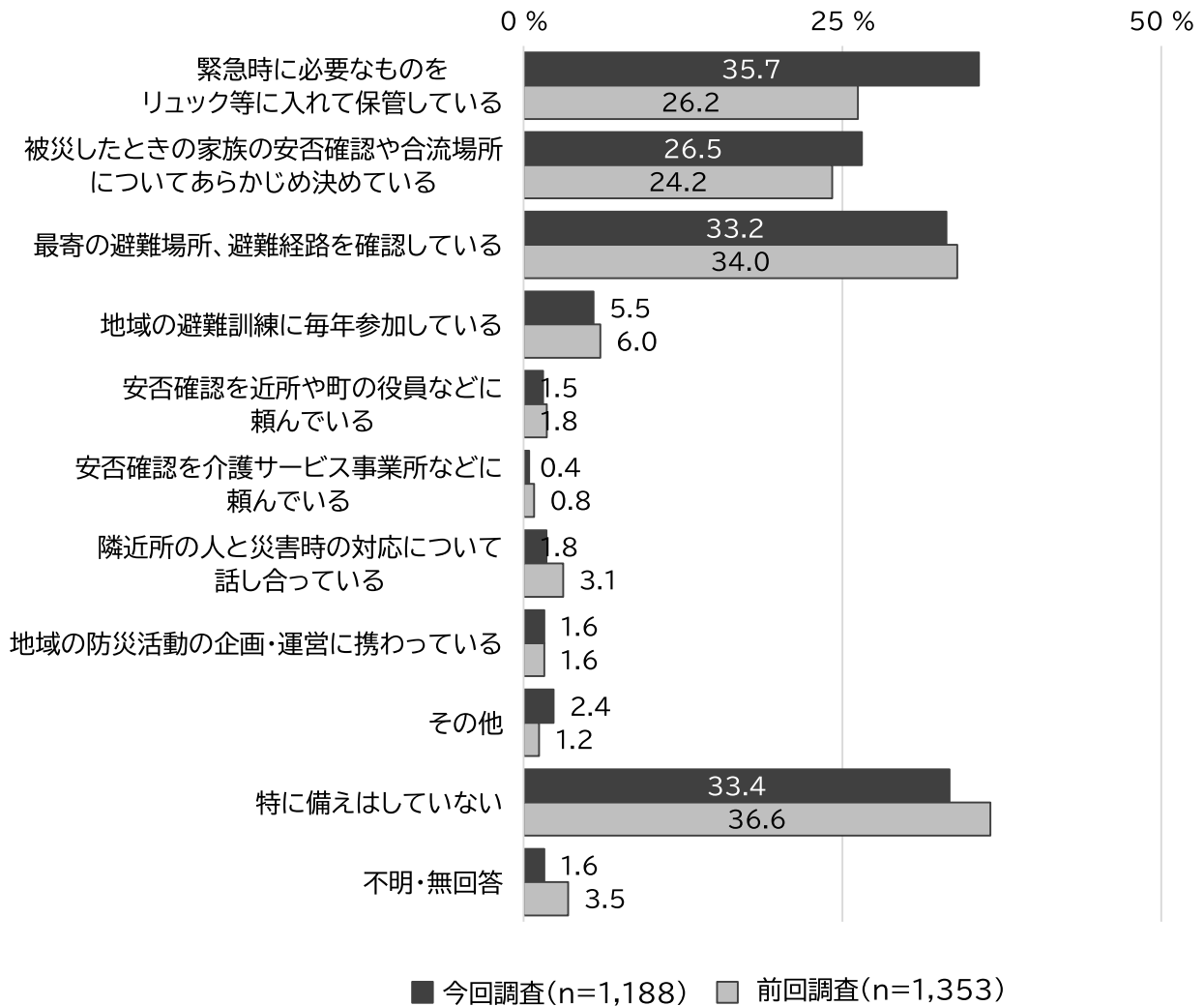
問27 地震災害などのために、どのような備えをしていますか

「緊急時に必要なものをリュック等に入れて保管している」が35.7%で最も多く、次いで「特に備えはしていない」が33.4%、「最寄の避難場所、避難経路を確認している」が33.2%となっている。



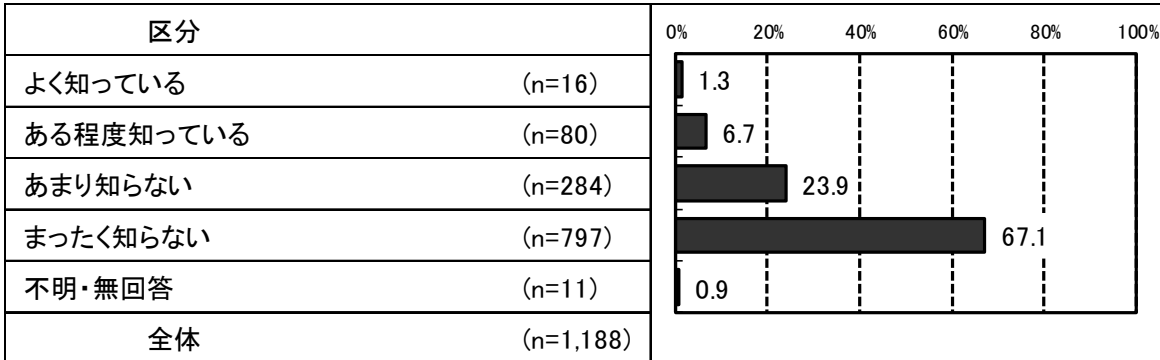
●前回調査との比較

前回調査において、「緊急時に必要なものをリュック等に入れて保管している」の回答割合が前回調査の26.2%から35.7%に増加しています。



問28 岸和田市避難行動要支援者支援プランについて知っていますか

「まったく知らない」が67.1%で最も多く、次いで「あまり知らない」が23.9%、「ある程度知っている」が6.7%となっている。



●年齢別クロス集計

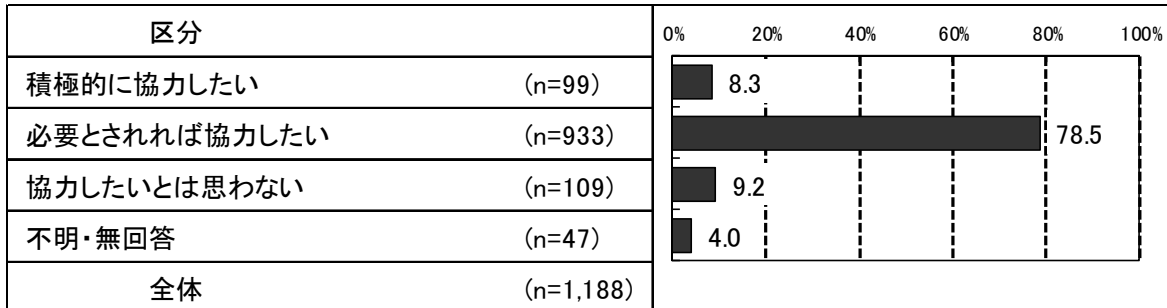
年齢別にみると、どの年齢層ともに「まったく知らない」が最も高くなっている。「ある程度知っている」、「あまり知らない」では、年齢が上がるにつれて高くなっている。

	合計（人）	よく知っている	ある程度知っている	あまり知らない	まったく知らない	不明・無回答
全体	1,188	1.3	6.7	23.9	67.1	0.9
青年層(18～39歳)	206	0.0	2.9	13.1	84.0	0.0
壮年層(40～59歳)	450	1.8	5.1	21.3	71.1	0.7
熟年層(60歳以上)	519	1.5	9.6	30.4	57.0	1.3

年齢3区分 p 値<0.01:「有意差あり」

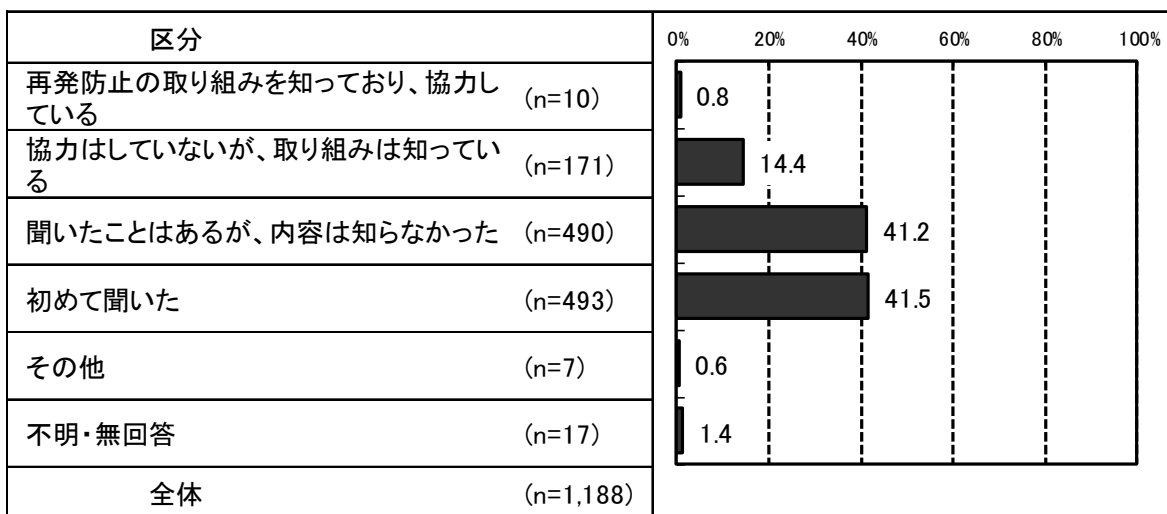
問29 避難行動要支援者への支援に関して、協力できますか

「必要とされれば協力したい」が78.5%で最も多く、次いで「協力したいとは思わない」が9.2%、「積極的に協力したい」が8.3%となっている。



問30 再犯防止の取り組みが進められていることをご存じでしたか

「初めて聞いた」が41.5%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」が41.2%、「協力はしていないが、取り組みは知っている」が14.4%となっている。



●年齢別クロス集計

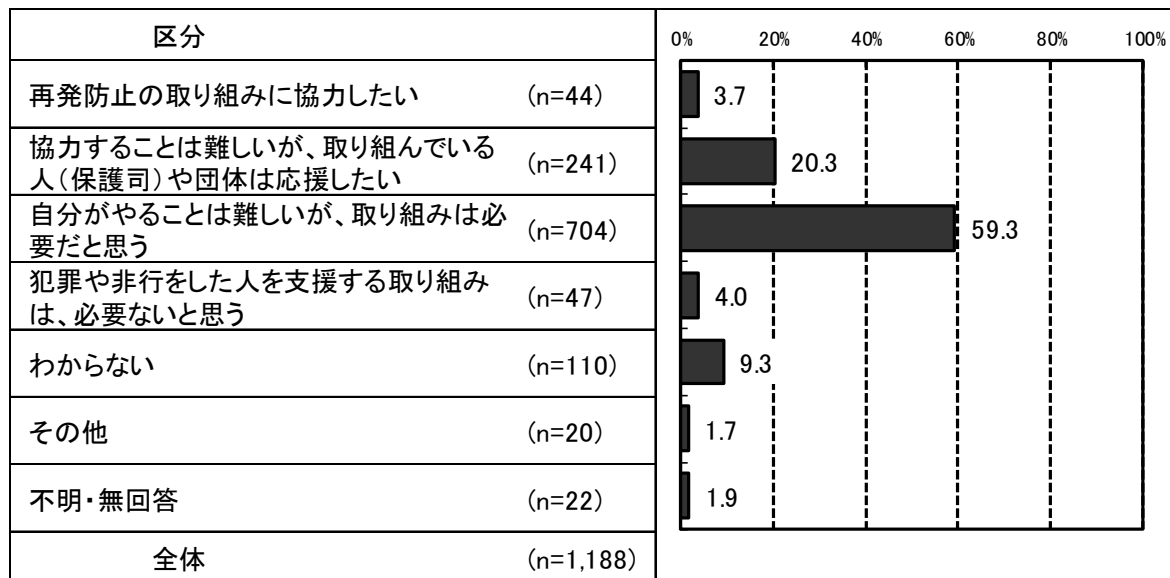
年齢別にみると、「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」では、年齢が上がるにつれ回答割合が高くなる一方、「初めて聞いた」では、年齢が上がるにつれて低くなっている。

	合計（人）	知 つ 再 発 防 止 の 取 り 組 み を る	取 り 組 み は 知 っ て い る 、	聞 い た こ と は あ る が 、 内 容 は 知 ら な か っ た	初 め て 聞 い た	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体	1,188	0.8	14.4	41.2	41.5	0.6	1.4
青年層(18～39歳)	206	1.9	13.6	34.0	50.0	0.0	0.5
壮年層(40～59歳)	450	0.2	14.9	39.6	43.1	1.3	0.9
熟年層(60歳以上)	519	0.8	14.5	45.9	36.6	0.2	2.1

年齢3区分 p 値<0.01:「有意差あり」

問31 再犯防止の取り組みについて、どのように思われますか

「自分がやることは難しいが、取り組みは必要だと思う」が59.3%で最も多く、次いで「協力することは難しいが、取り組んでいる人（保護司）や団体は応援したい」が20.3%、「わからない」が9.3%となっている。



●性別・年齢別クロス集計

男女別にみると、男女ともに「自分がやることは難しいが、取り組みは必要だと思う」が最も高くなっている。「再発防止の取り組みに協力したい」、「犯罪や非行をした人を支援する取り組みは、必要ないと思う」では男性の回答割合が女性より高くなっている。

年齢別にみると、どの年齢層も「自分がやることは難しいが、取り組みは必要だと思う」の回答割合が最も高くなっている。「再発防止の取り組みに協力したい」、「犯罪や非行をした人を支援する取り組みは、必要ないと思う」では年齢が上がるほど回答割合は低くなっている。

		合計（人）	再発防止の取り組みに協力したい	協力することは難しいが、 取り組んでいる人（保護司）や 団体は応援したい	自分がやることは難しいが、 取り組みは必要だと思う	犯罪や非行をした人を支援する 取り組みは、必要ないと思う	わからない	その他	不明・無回答
	全体	1,188	3.7	20.3	59.3	4.0	9.3	1.7	1.9
性別	男性	580	5.2	19.3	54.5	6.4	10.3	2.1	2.2
	女性	591	2.2	21.0	64.0	1.7	8.5	1.4	1.4
	1、2以外	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢3区分	青年層（18～39歳）	206	6.3	23.3	50.0	6.8	11.2	1.0	1.5
	壮年層（40～59歳）	450	4.4	20.0	59.3	4.0	8.9	2.4	0.9
	熟年層（60歳以上）	519	1.9	19.5	62.8	2.9	9.1	1.2	2.7

性別 p 値<0.01:「有意差あり」

年齢3区分 p 値<0.01:「有意差あり」

問32 地域福祉の取り組みのうち、重要だと思うものはどれですか

「さまざまな活動の意義と重要性のPR」が44.0%で最も多く、次いで「相談・指導を行う専門職員の充実」が38.6%、「困っている人や助けあいの場や組織に関する情報提供の充実」が34.6%となっている。

(複数回答)

